特定機能病院

日本大学医学部附属 板橋病院

薬剤部

Nihon University Itabashi Hospital Department of Pharmacy



2026 年 10 月改定（16 版）

2015 年 6 月作成（初版）

目　次

はじめに…… 1

日本大学医学部附属板橋病院の概要…… 3

◆薬剤部組織紹介…… 4

◆部門紹介

調剤室…… 6
麻薬管理室…… 7
製剤室…… 7
医薬品管理室（注射調剤）…… 8
病棟薬剤業務…… 9
医薬品情報室…… 10
がん化学療法…… 11
薬剤師外来…… 11
救命救急センター…… 12
手術室…… 13
診療支援センター…… 13
教育（薬学生・新人）…… 14
臨床研究センター（治験業務）…… 15
医療安全管理室…… 16
薬学部実務教員…… 16

◆チーム医療紹介

ICT（感染制御実践チーム）/ AST（抗菌薬適正使用支援チーム）…… 17
緩和ケアチーム…… 17
NST（栄養サポートチーム）…… 18
褥瘡対策チーム…… 18

◆業績・資格・認定・学位取得

論文・執筆…… 19

1. 原著論文（国際誌）
2. 原著論文（国内誌）
3. 執筆（総説，著書など）

講演・学会発表・受賞歴…… 24

1. シンポジウム・セミナー・講演
2. 海外学会発表
3. 国内学会発表
4. 受賞歴

専門・認定・学位…… 35

1. 専門・認定薬剤師
2. 学位取得者

◆専門（認定）薬剤師の声…… 37

◆若手薬剤師の声…… 41

◆交通アクセス…… 43

はじめに

薬剤部では実務，教育および研究を柱とし，「薬あるところに薬剤師あり」を行動目標に医師や看護師そしてコメディカルの方々と連携して患者さんに信頼される質の高い薬剤業務を目指して活動しています。

実務においては，救命救急センター，総合周産期母子医療センター，腫瘍センター，痛みセンター，手術室等のほか全ての病棟に薬剤師が常駐し，様々な薬物療法に対応できるような体制を構築しています。また，臨床研究センターにも薬剤師を派遣しています。特に，救命救急センターと抗がん剤の調製および鑑査においては 24 時間体制をとり薬物療法の安全性を高めるだけでなく医療スタッフの業務負担軽減に貢献しています。さらに，がん患者さんへ極め細やかな指導が出来るよう薬剤師外来を設け，日本医療薬学会認定がん専門薬剤師，日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師および日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師を常駐させております。

教育としては，薬学部学生を 3 期受け入れ，11 週間にわたる実務実習を行っています。また，薬剤部員のスキルアップを支援するために，がんおよび感染等について勉強会を開催しています。さらに，近隣薬局との勉強会開催，薬局薬剤師の研修など積極的に活動しています。

研究としては，医薬品の適正使用に関する研究が主となりますが，学位および専門薬剤師取得を奨励し，学会発表や論文投稿に対する支援も行っています。

また 2016 年 6 月に医療法施行規則の一部改正が行われました。医療法施行規則の一部改正は，特定機能病院における重大な医療事故を背景に，さらなる医療安全の確保を図るために行われ医師の処方した薬剤を調剤する場合，以下に掲げる事項を行うことが法律上義務付けられました。

① 医師の処方した薬剤の使用が，未承認の医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法に該当するか否かを把握すること
② ①の使用に該当する場合には，薬学的知見に基づき，必要に応じて処方した医師等に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無，処方の妥当性等を確認すること

③ ①②の結果を踏まえ，必要に応じて処方した医師等に対し処方の変更等の提案を行うとともに，その結果を医薬品安全管理責任者に報告すること
④ ③の報告を踏まえ,必要に応じて医師等に対する指導等を行うとともに，院内全体に未承認等の医薬品の使用に関して必要な情報の共有等を行うこと
医薬品の添付文書に記載がある用法，用量，効能および効果と異なる場合は全て疑義照会の対象となります。この医療法施行規則の一部改正は，患者の安全を確実に組織的に守ることを求めており，医薬品の使用の際の最後の砦は薬剤師ですと述べているようです。適応外使用等で患者の安全が損なわれた場合には①から④までを実施した記録がないと薬剤師に非があることになります。

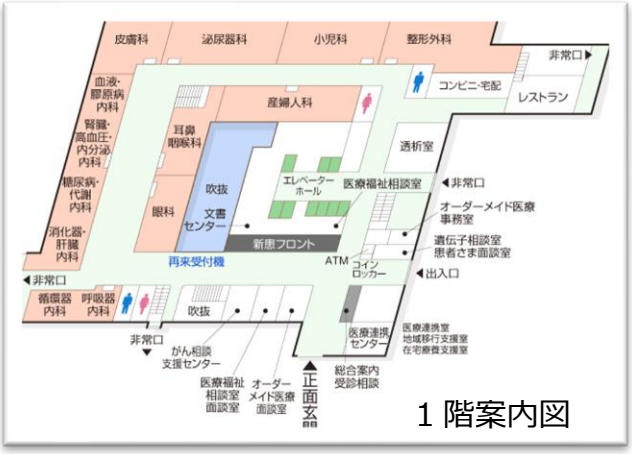
　このようなことからも大学病院の薬剤師として，患者さん個々の薬物療法に責任を持ち，ますます進歩する医療へ貢献するために，日々自己研鑽に励み，専門性の高い高度な薬学的知識を吸収し活用できるよう努力して参ります。

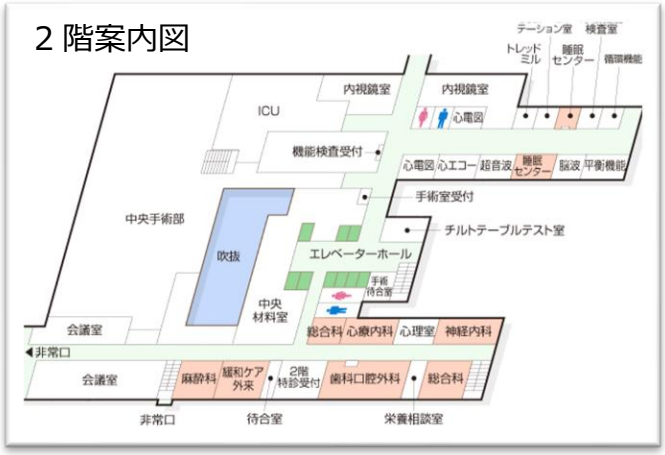
薬剤部長

博士（薬学）　福島　栄

日本大学医学部附属板橋病院の概要

診 療 科：38 科
病 床 数：988 床
患 者 数：1 日平均（外来）1,760 名，（入院）658 名　［令和 6 年度実績］
教職員数：1,373 名（常勤医師数 451 名）
建物概要：地上 8 階　地下 2 階







薬剤部はココです！

【認証および指定施設】

特定機能病院，特定承認保険医療機関，臨床研修指定病院，治験拠点病院
救急医療機関，救命救急センター，総合周産期母子医療センター，東京都こども救命センター
東京都地域救急医療センター，東京都脳卒中急性期医療機関，緊急大動脈重点病院
地域がん診療連携拠点病院，東京都小児がん診療病院
エイズ診療協力病院，第二種感染症指定医療機関，東京都感染症診療協力医療機関
東京都災害拠点病院，災害時医療派遣チーム DMAT 指定病院など

薬剤部組織紹介

【人員】

薬剤師：76 名（職員：73 名，非常勤：1 名），薬学部出向：2 名

＜男女比＞　男性：33 名，女性：43 名

＜出身大学＞（50 音順）

大阪薬科大学，北里大学，慶応義塾大学，共立薬科大学，城西大学，昭和薬科大学，帝京大学，帝京平成大学，東京薬科大学，東邦大学，日本大学，日本薬科大学，福岡大学，北海道大学，明治薬科大学

【勤務体系】

・4 週 6 休（土曜日は隔週勤務）
・夜勤（17：00 ～ 翌 9：00）、休日出勤あり、遅出 / 早出勤務
・業務時間〔平日〕9：00 ～ 17：00　〔土曜日〕9：00 ～ 14：30
　（部署により，一部業務開始時間が異なります。）

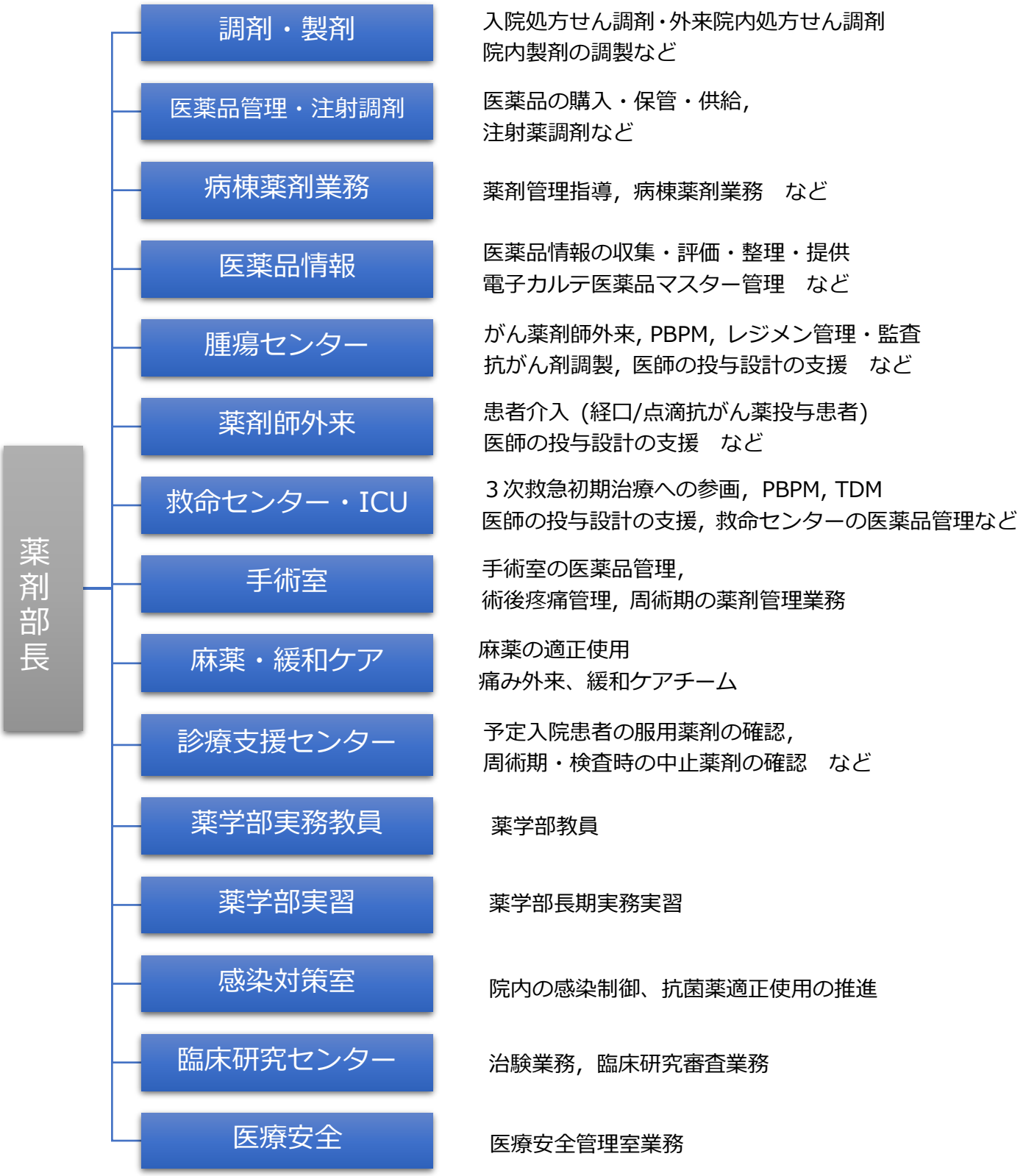
朝会の実施

9 時からの業務開始に合わせ，部員全員が集まり，朝会を行います。
毎日お互いの顔を見ることで情報を共有する機会ができます。

【認定施設】

・日本医療薬学会 認定薬剤師制度 研修施設
・日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師 研修施設
・日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師 研修施設
・日本医療薬学会 がん専門薬剤師 研修施設
・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 研修施設
・日本臨床薬理学会 認定薬剤師制度 研修施設
・長期実務実習 受入施設

【組織図】


薬剤部長
調剤・製剤
入院処方せん調剤・外来院内処方せん調剤
院内製剤の調製など
医薬品管理・注射調剤
医薬品の購入・保管・供給,
注射薬調剤など
病棟薬剤業務
薬剤管理指導，病棟薬剤業務　など
医薬品情報
医薬品情報の収集・評価・整理・提供
電子カルテ医薬品マスター管理　など
腫瘍センター
がん薬剤師外来, PBPM, レジメン管理・監査
抗がん剤調製，医師の投与設計の支援　など
薬剤師外来
患者介入（経口/点滴抗がん薬投与患者）
医師の投与設計の支援　など
救命センター・ICU
３次救急初期治療への参画，PBPM, TDM
医師の投与設計の支援，救命センターの医薬品管理など
手術室
手術室の医薬品管理,
術後疼痛管理，周術期の薬剤管理業務
麻薬・緩和ケア
麻薬の適正使用
痛み外来、緩和ケアチーム
診療支援センター
予定入院患者の服用薬剤の確認,
周術期・検査時の中止薬剤の確認　など
薬学部実務教員
薬学部教員
薬学部実習
薬学部長期実務実習
感染対策室
院内の感染制御、抗菌薬適正使用の推進
臨床研究センター
治験業務，臨床研究審査業務
医療安全
医療安全管理室業務

部門紹介



調剤室

【主な業務内容】

・入院調剤
・外来調剤（院内製剤等のみ）
・外来患者の服薬指導（院内処方時のみ）
・持参薬確認（時間外のみ）



調剤室では，処方箋に基づき，処方内容が適正であるかを確認し，調剤，情報提供を含めた服薬指導，お薬の交付を行っています。また，錠剤が服用できない患者さんの場合，主治医に対して剤型変更の提案や錠剤粉砕・簡易懸濁法の可否などを情報提供しています。



患者さんの状態に合わせた調剤

例えば小児におけるお薬の分割投与の場合には，迅速に調剤するため，予め倍散(製剤品の希釈)を計画的に作製し，管理しています。

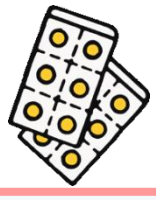
電子カルテと連動した鑑査システムを活用

医療安全の面では，電子カルテと連動した散薬鑑査システムの導入により，薬の取り間違い，散薬の秤取量間違いを防止しています。さらに，処方を解析する部門システムでは，医薬品の併用禁忌，同効薬の重複投与等のチェックを行っています。



患者さんの持参薬については，鑑別だけでなく，患者さんの状態や病棟の依頼に応じて，持参薬の一包化にも対応しています。ハイリスク薬（安全管理のため特に薬学的管理の関与が必要な医薬品）に対しては，電子カルテにて適応疾患名を確認，記録することで，有効性，安全性の確保に努めています。

麻薬管理室



【主な業務内容】

・麻薬管理
・特殊な管理を必要とする薬剤の管理
・院内巡視
・関係官庁への各種届文書作成，提出及び対応



厳しい管理で事故を防止

麻薬室では，法令を遵守し，医療用麻薬の購入から払出，施用確認，返却残薬の確認及び廃棄などを行い，院内すべての医療用麻薬の管理をしています。また，医療用麻薬以外にも特に厳重な管理を必要とする医薬品について，他の薬剤と区別して麻薬室にて管理しています。定期的に医療安全管理室，薬剤管理委員会と連携して院内の巡視を行い，各部署で適切に管理されているかを確認し，指導しています。

担当に緩和ケアチームが２名併任しており，午後は緩和ケアチームラウンドに出かけ，情報をフィードバックしています。これらの業務を通じて管理薬剤が適切かつ迅速に患者さんに届くよう，日々適正管理に努めています。

製剤室



【主な業務内容】

・院内製剤の調製（点眼液，消毒薬，内用液剤，含嗽薬，坐剤，軟膏，注射剤など）
・IVH の調製（注射調剤部門と連携）

必要とされる薬を作り，患者に届ける

製剤は医療法の下で医療機関の責任下で院内において調製・使用されるものです。院内製剤はその目的に応じ，２種以上の医薬品を混合予製する調剤の準備（軟膏の混合や消毒剤の希釈等）や患者の治療や診断を目的とするもの，また，手術時のマーキングなど医療に用いるが患者さんの治療・診断目的ではないものに分けられます。



製剤業務は薬剤部業務の中で，唯一院内製剤品という「物」を作りだすことのできる部門です。
製剤室は院内製剤を通して，患者さんへの治療へ貢献をしています。

医薬品管理室・注射調剤



【主な業務内容】



・注射薬の購入・品質管理
・入院・外来使用薬剤の確保
・特定生物由来製品のロット番号管理
・手術用カートの医薬品管理
・注射薬の各病棟への払い出し（個人セット）
・中心静脈注射の混合調製

医薬品の在庫・品質管理

使用量を見ながら翌日使用する医薬品の発注を行います。納品される全ての医薬品を（医薬）品名，規格，単位，数，使用期限等を検収した後，速やかに棚入れ（先入れ・先出し）され，冷所保存医薬品は所定の保冷棚に在庫数を管理しておきます。

入院・外来使用薬剤の確保，適正在庫で病院経営にも寄与

使用予定患者様の受診予約が担当医師，部署から入り次第，使用する医薬品の在庫を確保します。高額医薬品・特殊疾病については使用量を確認後，前日までに在庫確保します。さらに病棟・外来の在庫医薬品の使用期限・在庫数を定期的にチェックし適正在庫になるよう調整を行います。



注射薬の取り揃え

血液製剤ロット管理

血液製剤が誰にどのロット番号で使用されたかを管理しています。
ロット番号は電子カルテ内で適切に管理されています。

注射薬の払い出し（個人セット）

注射薬は用法・用量，投与速度，配合変化，配合禁忌のチェック，
ハイリスク薬の管理など，医師による注射処方の適正使用に最重点置き，
1 施用ごとの取り揃えを行った後，病棟に供給しています。



中心静脈注射の混合調製

注射薬混合調製業務では，中心静脈投与として入力された高カロリー輸液を含む全ての注射薬をクリーンベンチ内で調製し，病棟へ供給しています。

病棟薬剤業務



【主な業務内容】

・服用歴の確認
・持参薬確認
・副作用・アレルギー歴の確認
・服薬説明
・内服・注射処方の投与量・投与方法，
　相互作用の確認などのチェック
・医薬品の情報提供



患者さんが安心して薬物治療を受けられるために

当院は診療科 36 科，990 床を有する特定機能病院です。本年から全病棟に薬剤師を配置し，入院患者全員に対してシームレスなファーマシューティカルケアを提供しています。病棟業務は患者さんが安心して薬の服用が継続できるよう，服薬説明を行いアドヒランスの向上につとめています。

また，持参薬の確認を薬剤師がきめ細かく行い，医師，看護師に服薬状況を情報提供することも重要な業務です。さらに，当院は薬剤師が病棟に常駐し，患者の状態をふまえて医師と薬物治療についてディスカッションを行い，薬物治療の処方支援等を行っています。日々病棟において看護師と様々な情報交換を行っていますが，薬の配合変化等の相談を受けることも多く，医療安全の面でも貢献しています。

今後，ますます医療は複雑化していくと思われます。より安全で良質な薬物治療を患者さんに提供できるよう，薬剤師は今日も病棟にいます！！

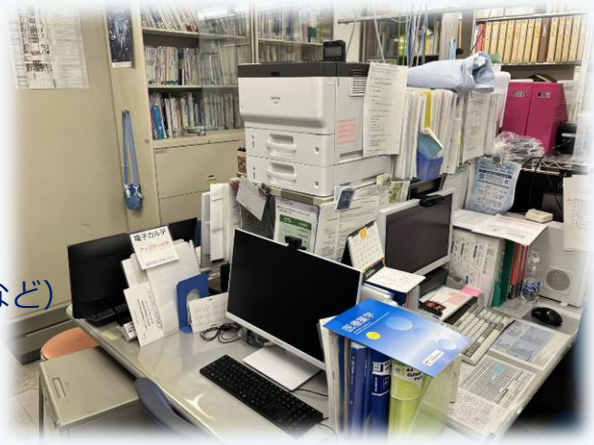
患者教室（心筋梗塞・心不全・糖尿病）

生活習慣病患者は症状が出ていない状態で治療すること，薬物治療だけでなく，食事・運動等今までの生活の改善が必要なことから医師の力だけでは適切な治療の継続が難しく，他職種による支援が患者の治療継続に有効と言われています。当院では「急性心筋梗塞後の患者」「慢性心不全患者」「糖尿病患者」に対して医師・看護師・薬剤師・栄養士・臨床検査技師・理学療法士から成る患者教室を開催しています。薬剤師としては処方された薬の意図を患者に理解してもらうことでアドヒアランスを高め，注意が必要な副作用の初期症状や服用上の注意点を説明することで，安全な薬物療法が続けられるよう支援しています。また各職種の指導を共有することで通常の服薬指導時に薬物療法以外でも患者の疑問・誤解の解消ができ，問題点があれば他職種と連携して解決にあたることができます。

医薬品情報室



【主な業務内容】



・医薬品情報の収集，整理，保管，提供
・病棟薬剤業務，薬剤管理指導業務の補助
・副作用情報やプレアボイドの収集，報告
・電子カルテ医薬品マスター管理
・製薬企業との窓口（医薬品紹介，情報収集など）
・薬事委員会幹事

医薬品情報を提供し，治療の現場を支える

医薬品情報を扱うということは，薬剤師だからこそ出来る（出来なくてはいけない）とても重要なスキルです。ただ，個人で常に最新の情報を入手し続け，自らをアップデートしていくことや，数多くの医薬品についての情報を体系的にまとめていくことは大変なことです。そこで医薬品情報室では，板橋病院で採用している医薬品を中心に最新の情報を収集・整理・管理し，医療スタッフが求める情報を，迅速かつ正確に提供できる体制をとっています。特に副作用情報やプレアボイドの収集を通じ，病棟薬剤師との連携を強化しています。



製薬企業 MR との窓口として

製薬企業との窓口業務や薬事委員会の幹事業務を通じ，新規医薬品に関する情報をいち早く収集・評価できるため自分自身のアップデートも可能です。



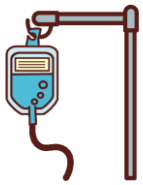
医療関連システムの管理を通じ医療安全も

電子カルテの医薬品マスター管理を行い，医師の処方や看護師の与薬が正確に行われるよう医療安全を考慮したシステム作りも行っています。

また，医薬品物流システムのマスターも管理しており，在庫管理にも関与しています。

このように医薬品情報室は
薬剤師だからこそ出来るスキルを最大限に発揮し，治療の現場を支えています！

腫瘍センター



【主な業務内容】



・入院，外来抗がん剤調製
・外来がん化学療法患者への服薬指導

安心・安全ながん化学療法を施行するために

入院患者のがん薬物療法については登録レジメンに従って電子カルテを活用し患者の状態や治療などの必要な情報を収集して投与の妥当性を確認しています。その後，すべての抗がん剤を安全キャビネットで適切に調製し病棟へ供給することで安全にがん薬物療法を行うよう管理を行っています。

また，近年，がん治療は「入院で行う治療」から「外来で行う治療」へ大きくシフトしています。つまり治療から自宅療養にいたるまでシームレスなケアをチームとして行う必要があります。

当院の外来化学療法室は，専門資格を取得している医師・薬剤師・看護師が一体となったチーム医療を実戦しています。その中で薬剤師は処方鑑査や調製業務の他に，患者個々にあわせた支持療法の提案，経口抗がん薬に対する地域連携および日頃のクリニカルクエスチョンに対する臨床研究を能動的に実施しています。患者さんを中心とした他職種のコミュニケーションを充実させ適切かつ安全な化学療法を実施し，全てが患者さんに還元されるがん医療を目標としています。

薬剤師外来



【主な業務内容】

・経口抗がん薬投与患者の診察前面談。
・副作用モニタリング結果の医師へのフィードバック
・能動的な薬学的介入（PBPM;プロトコールに基づく薬物治療管理を含む）

薬剤師の視点でがんを診る

がん治療に限らず薬剤師の職能向上には受動的介入から能動的介入へのシフトが必要です。つまり患者さんを薬剤師が責任を持ってしっかり「診る」ということです。

薬剤師外来では，このコンセプトに基づき経口抗がん薬で治療中の患者さんに対し医師の診察前に問診・視診・触診から副作用モニタリングを行い客観的に評価します。この結果から支持療法や用量調節等の提案を事前に医師にフィードバックします。また，特定の範囲内における処方代行入力の権限も付与されています(PBPM)。患者さんとコミュニケーションをとりながら訴えや症状に対して薬学的な思考だけではなく，診断までのプロセスを考えることが必要とされる部門です。

救命救急センター



【主な業務内容】

・３次救急 初期治療（初療）への参加
・医薬品管理（麻薬，向精神薬，筋弛緩薬など含む）
・入院患者のモニタリング（薬剤管理指導・病棟薬剤業務）
・回診，カンファレンスへの参加
・薬物血中濃度モニタリング（TDM）
・注射薬の調製，個人セット



救命救急センター　スーパー総合周産期センター
外傷センター　こども救命センター

命の最前線で働く

救命救急センターは，生命の危機に瀕した重症患者が昼夜を問わず搬送される部門です。短時間で多くの治療や処置が行われるため，多職種連携による「チーム医療」の必要性が高く，薬剤師もその一翼を担っています。

搬送直後の初療室から集中治療室を経て退院に至るまで，24 時間体制で積極的に薬学的管理を行います。一瞬の判断ミスが患者さんの生命を左右するため，担当薬剤師は病態や緊急度に合わせた最適な薬物治療を提供すべく，日々知識のアップデートを行っています。

また，重症の患者さんによりよい医療を提供すべく救急医療や集中治療の薬物治療に対する研究活動にも励んでいます。１人でも多く重症の患者さんを「救う」ことができるよう日々研鑽を積んでいます。





重症患者のＴＤＭは，自然とディスカッションも熱くなる

TDM を駆使し，重症患者に最適な薬物治療を

抗菌薬を中心として，有効性と安全性の確保を目的に TDM を行っています。特に重症患者では，血行動態の変化や血液浄化療法により薬物動態が著しく変動するため，TDM は薬剤師の腕の見せ所です。
投与開始後だけではなく初期投与設計からも積極的に関わり，適切な薬物治療を提供できるように支援しています。

手術室



【主な業務内容】

・麻薬管理
・手術用カート管理
・手術中の使用薬剤確認と代行入力
・手術患者に対する処方確認
・手術患者に対するアレルギー確認と予防策の提供



麻酔科医へ麻薬を手渡す

薬あるところに薬剤師あり

麻薬や静脈麻酔薬，筋弛緩剤などハイリスク薬剤を多く使用する手術室において，薬剤管理や薬物治療に対して積極的に関わっています。麻酔科医が手術に専念できる環境整備，医薬品請求コストの適正化，手術中の安全な薬物治療への貢献を目指して，麻酔科医や病棟薬剤師と緊密に連携しながら業務を展開しています。

まだ，確立していない業務だけに，学会や他施設の報告などにもアンテナをはり，よりよい業務にしていくことを心がけています。

診療支援センター

【主な業務内容】

・予定入院患者の服用薬剤、サプリメント使用の確認
・周術期、検査時の中止薬剤の確認及び休薬指導



多職種参画で、患者さんに安全な療養生活を

診療支援センターは、２０１８年６月から業務開始した比較的新しい部門です。現在、薬剤師２-4 名、看護師１０名、事務員２名が在籍し、必要に応じて管理栄養士、MSW が対応しています。入院前に薬剤師、看護師で患者面談することにより、早期に 療養計画に関わることが可能となり、患者さんごとに 必要な調整・支援を行っています。薬剤師面談では、入院前の患者さんの薬に対する不安解消や、病棟薬剤師との連携による病棟業務補助、また、術前休薬の薬剤及び休薬期間の確認、休薬指示の徹底などを通じて医療安全にも寄与しています。

痛みセンター

主な業務内容】

・副薬歴の確認
・アドヒアランスの確認
・服用した薬剤の効果・副作用の確認
・薬物療法に対する患者の受け止め方の確認



チーム医療で気づきを促す

治らない痛みのために生活に支障を抱えた患者さんを多職種で診察すること、薬剤師診察前後に他の職種と細やかな情報共有を行うことで次の診察につなげ患者と一緒にそれぞれ異なる原因や対応方法を探しています。

薬学部生実習

【主な業務内容】

・薬学部　長期実務実習全般

将来活躍できる薬剤師の育成

薬剤部では，薬学部 6 年制における実務実習教育として，年間を通し三期（一期当り 20 名弱）に渡り学生を受け入れています。認定実務実習指導薬剤師のもと，薬剤部員全員が各部署にて指導を行います。コアカリキュラムを網羅する他，特に医療が高度化していく中で薬剤師の新たな活躍の場となっている救命救急病棟や外来化学療法室での見学，その他感染制御，緩和ケアチームなどへも参加体験できるよう多岐にわたりスケジュールを組んでいます。実習全般においては，進捗状況・達成度の確認を行い，常に学生とコミュニケーションをとって進めています。

学生には個々に相談できる担当薬剤師をチューターとして配置しています。実習内容はもちろんのこと健康管理や心配事などを気楽に相談できる雰囲気作りを心掛けています。病院薬剤師として医療への関わり方が伝わるよう，円滑な実習体制をとっています。

臨床研究センター（治験）

臨床研究推進センターは薬剤部内の組織ではありませんが，薬剤部員が出向して治験業務に就いています。

【人員配置・勤務体系】

センター長（選任）：医師１名
スタッフ（選任）：薬剤師５名，看護師６名，臨床検査技師５名，医療職なし３名，事務職５名

【業務内容】

（1）治験事務局業務
（2）治験薬管理業務
（3）ＣＲＣ（Clinical Reseach Coordinator）業務

【業務概要】

（1）治験審査委員会がＧＣＰに準拠して開催できるよう支援を行っています。
（2）治験薬を適正に管理して，患者さんが安全に治験薬を使用できるように調剤・鑑査および服薬指導を行っています。
（3）ＣＲＣとして，院内関連部署との調整，治験の同意説明の補助，治験スケジュールの管理，検査の同行・結果の確認，症例報告書の作成補助など治験担当医師の業務を支援しています。

【取得認定】
日本臨床薬理学会：ＣＲＣ認定，日本癌治療学会：データマネージャー認定，
日本臨床試験学会：認定ＧＣＰパスポート，認定ＧＣＰエキスパートなど



治験薬の返却業務

医療安全管理室

【主な業務内容】

・インシデント，アクシデント解析とフィードバック
・医療安全にかかわる教育

安全な医療のために薬剤師の視点で検証を

当院では，高度で先進的な医療を提供するとともに，
医療水準の向上や安全管理に努めています。
しかし医療は潜在的に不確実な要素があり，副作用のない薬はありません。医療事故の防止には，事故原因の分析と医療行程の標準化が有用です。

当院では今年度より，医師，看護師とともに薬剤師も医療安全管理室の専従となり，インシデントレポートに代表されるサーベイランス活動などを通じ，各診療科や病棟での医療事故防止と，事故発生時の対応などについての教育を行っています。
薬剤師だからこそ気づく医療環境や手技，薬剤使用方法などの盲点を分析・調査し，事故予防ための啓蒙活動をしています。

薬学部実務教員

【主な業務内容】

・薬学部生　実務事前学習，薬学実務実習，早期臨床体験学習（講義及び実習）
・薬剤師　　生涯教育（各種講座の開催）

教育現場にも薬剤師

医療の高度化、少子高齢化により医療・薬学をめぐる状況は常に変化しております。この社会情勢の中で、薬剤師には薬物治療への積極的な貢献が期待され、質の高い薬剤師の養成が必要とされています。

当院では、一定の基準を満たした薬剤部員が任期制で薬学部実務家教員として、学部にて開講する薬学実務実習の関連科目を担当し、教育に関して中心的な役割を担っております。薬剤師の実務経験を活かし、調剤ばかりではなく患者と病態に対する薬学的知見に基づく関連性及や医師・看護師などの医療関係者と薬剤師の関連性を多方面から考慮した教育を行うことにより、学部における実務事前教育の効果を上げ、薬学 5 年次に行われる実務実習がより実践的な臨床実習修得の場になるよう努めております。

実践力を備えた薬剤師を多数輩出し、日本の医療の質の向上に寄与するため、研究活動などによる自己研鑽も積んでおります。

感染対策室

主な業務内容】

・感染症治療体系の構築，病院感染の防止，医療者の健康と安全の確保

COVID-19 の流行以降，感染対策の重要性はますます高まっている

院内感染対策の実動部隊である ICT(感染制御実践チーム)や AST(抗菌薬適正使用支援チーム)は，医師，看護師，薬剤師，臨床検査技師など様々な職種で構成されています。院内ラウンドの実施や全教職員対象の講習会など教育活動による感染対策の向上と質の維持により病院内における感染事例を減少させ，アウトブレイクを未然に防ぐことを目的に活動しています。チームにおける薬剤師の役割は，抗菌薬・消毒薬の使用状況の把握と適正使用の指導，注射調製の手順確認，環境整備の指導や薬剤の保管状況，使用期限の確認等，薬に関する部分を担っています。

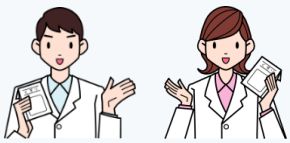


ミーティングの様子

新人教育

新入職員に対して，体系的なカリキュラムを組んで，教育に当たっています。

・自己評価ツールの導入
・プリセプター制度
・処方解説会、専門領域勉強会



充実した教育サポート体制　　全ては患者さんのために

日本大学医学部附属板橋病院の理念を理解し、患者さんに安全で適切な医療を提供することが出来るように、知識、技能を総合して様々な課題を解決できる病院薬剤師の育成を行っています。そのため、業務スキルの確認が出来るように自己評価ツールを用いております。さらに、プリセプター制度を用いて進捗状況の確認と精神面でのフォローをすることで、問題点が早期に解決できるようにしております。

各種勉強会を通して臨床で求められる薬剤師（Generalist ＆ Specialist）になれるように体系的なカリキュラムを組んでおります。2 年目以降も継続してスキルアップできるように認定・専門薬剤師資格取得や学術活動（学会発表・論文執筆）のサポートも行っております。

チーム医療紹介

院内の様々なチームに参加して，薬剤師の職能を発揮しています！
その一部を紹介いたします。

緩和ケアチーム

【活動内容】



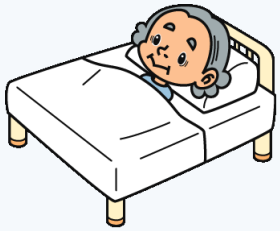
カンファレンスの様子

緩和ケアとは，患者さんの苦痛を取り除き，患者様とご家族にとって自分らしい生活を送れるようにするためのケアです。当院には医師，看護師，薬剤師，臨床心理士がメンバーとなって痛みや苦しさ，不安などの苦痛症状についてサポートを行う緩和ケアチームがあります。

チームの薬剤師は，主につらい症状を和らげるための薬物療法の処方提案を行っています。薬剤の副作用対策，併用可否，腎・肝機能低下時の薬剤選択などについても提案しています。緩和領域以外の薬剤にも留意しなければならず幅広い知識が必要となりますが，他職種とともに毎日患者様の体調を確認し，患者様の苦痛を少しでも減らすことができたときは非常にやりがいを感じます。

褥瘡対策チーム

【活動内容】



活動性が低下したり，安静状態が長く続いたりすると，圧迫を受けるお尻やかかとの皮膚に褥瘡ができやすくなります。褥瘡対策チームでは予防・早期発見に努め，適切な褥瘡管理によって改善・治癒を目指しています。チームとしては週 1 回皮膚科の医師を中心にラウンドし可能な限り薬剤師もカンファレンスに参加しています。

薬剤師の主な役割は，1）薬効だけではなく，軟膏基剤の特徴，複数の外用薬を混合したときの安定性に関する情報を提供，2）外用薬に限らず，褥瘡の発症に関係する内服薬の影響を把握し，副作用を防止する情報を提供，3）褥瘡の病態を観察し，治療に使用する外用薬やドレッシング材（創傷被覆剤）についての情報を提供し，薬剤の効果などを評価しています。



NST（栄養サポートチーム）

【活動内容】

NST は,Nutrition Support Team の略で,医師･看護師･薬剤師･管理栄養士など様々な職種から構成され,入院患者に最良の栄養療法を提供するため,主治医と連携して栄養面から治療を支援する医療のサポートチームです。栄養状態が悪いと,どれだけよい治療してもなかなか回復しなかったり,また低栄養などで手術後などに感染症や合併症を起こしてしまったりすることもあります。NST は,このような問題を解決するための栄養支援チームです。



薬剤師の主な役割は
1）指導栄養輸液・混合輸液の投与法の管理
2）栄養薬剤・栄養輸液メニューの提案
3）栄養薬剤の説明と服薬指導です。
回診前など NST スタッフが集まりミーティングを行い,情報を共有化しています。
現在,適宜 NST 回診時などにも参加しています。

業績・資格・認定・学位取得

専門・認定・学位

1．専門・認定薬剤師

認定団体・学会	名称	取得者
日本医療薬学会	医療薬学指導薬剤師	葉山達也，今井 徹，栃倉尚広，鈴木慎一郎
	医療薬学専門薬剤師	福島 栄，髙橋 努，葉山 達也，今井徹，栃倉 尚広，鈴木 慎一郎，
	がん指導薬剤師	早坂 正敏，葉山 達也，坪井 伸也，内池 明博
	がん専門薬剤師	葉山 達也，坪井 伸也，内池明博，鷲巣 晋作，間 勝之
	薬物療法専門薬剤師	小玉 健太郎
日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師	上島 健太郎，鈴木 慎一郎
	がん薬物療法認定薬剤師	中山 敏光，上島 健太郎，坪井 伸也
	感染制御専門薬剤師	栃倉 尚広
	感染制御認定薬剤師	岩渕 聡
	病院薬学認定薬剤師	時任 裕子，堤 大輔，岩渕 聡，坪井伸也，小玉 健太郎，中山 晋作，松本 千明，目黒 翔太郎，澤村 順哉，大川 早霧，湯本 一成，麻生洋哉
	生涯研修履修認定	鈴木 慎一郎
日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師	坂田 和佳子，橋爪 さおり，伴野 智子，羽鳥 恵子
	漢方・生薬認定薬剤師	西澤修司
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	栃倉 尚広，松本 千明，澤村 順哉，藤條 拓，，湯本 一成
ICD 制度協議会	インフェクションコントロールドクター（ICD）	栃倉 尚広
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	上島 健太郎，関本 明子，坂田 和佳子
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師	谷口 樹
	外来がん治療専門薬剤師	内池 明博，鷲巣 晋作,田村 めい，長木 弓子，間 勝之，時任 裕子
日本臨床栄養代謝学会	ＮＳＴ専門療養士	栃倉 尚広，中田 智子，鈴木 慎一郎，藤條 拓，森 沙緒理，麻生洋哉
日本臨床救急医学会	救急専門薬剤師	今井 徹
	救急認定薬剤師	今井 徹，栃倉 尚広，鈴木 慎一郎，岩渕 聡，澤村 順哉，森沙緒理，藤條 拓，小玉 健太郎，目黒 翔太郎，中山晋作，湯本 一成

日本救急医学会	ICLS インストラクター	岩渕 聡, 森 沙緒理, 中山 晋作, 麻生洋哉
日本臨床薬理学会	認定ＣＲＣ	石川 浩子
日本医薬品情報学会	医薬品情報専門薬剤師	栃倉 尚広
日本腎臓病学会	腎臓病療養指導士	間 勝之
日本循環器学会	心不全療養指導士	本田 茉代, 宮松愛, 宮城 愛
糖尿病療養指導士認定機構	糖尿病療養指導士	森 啓子, 清水 妙子
日本アレルギー疾患療養指導士認定機構	アレルギー疾患療養指導士	関本 明子, 伴野 智子
日本小児臨床アレルギー学会	小児アレルギーエデュケーター	伴野 智子
日本麻酔科学会	周術期管理チーム	福島 栄, 藤條 拓, 湯本 一成
東京都	東京都肝炎医療コーディネーター	舩川友里
厚生労働省	DMAT	今井 徹, 岩渕 聡, 藤條 拓, 澤村順哉

２．学位取得者（博士）

【薬学】　福島　栄, 早坂　正敏, 高橋 努, 葉山 達也, 今井 徹, 小林 直子, 上島 健太郎, 内池 明博, 堤　大輔

【臨床薬学】 栃倉 尚広

論文・執筆

1．原著論文（国際誌）

-2026 年-

1) Tsukasa Kuwana, Kosaku Kinoshita, Yuma Kanai, Yurina Yamaya, Ken Takahashi, Satoshi Ishizuka, Toru Imai.Impact of high-dose cefepime during the initial 48 h on intensive care unit survival in sepsis: A retrospective observational study. Antibiotics. 2026 Jan 15;15(1):88.

2) Mayu Suzukawa, Tohru Aomori, Norifumi Suzuki, Tatsuya Hayama, Yukiyoshi Fujita, Hiromu Tanigawa, Yuki Ozawa, Naoya Suehiro, Akihiro Uchiike, Manami Amagasa, Yohei Suzuki, Hiroomi Sakurai, Keisuke Kiyomiya, Haruki Ishikawa, Hitoshi Kawazoe, Hisakazu Ohtani. Comparison of Non-Sedating and Sedating Histamine H1-Receptor Antagonist Premedication for Preventing Subcutaneous Daratumumab-Associated Infusion-Related Reactions: A Multicenter Retrospective Observational StudyKeio Journal of Medicine （KEIO JOURNAL OF MEDICINE） in press. 2026 年 01 月

-2025 年-

1) Katsuhiro Miura, Hiromichi Takahashi, Haruna Nishimaki-Watanabe, Takashi Hamada, Akihiro Uchiike, Daisuke Tsutsumi, Shimon Ohtake, Kazuhide Iizuka, Takashi Koike, Kazuya Kurihara, Toshihide Endo, Tatsuya Hayama, Masaru Nakagawa, Noriyoshi Iriyama, Yoshihiro Hatta, Hideki Nakamura. Contemporary management of diffuse large B-cell lymphoma in Japan. Expert Rev Anticancer Ther. 2025 May;25(5):551-559.

2) Kentaro Kodama, Toru Imai, Tsukasa Kuwana, Susumu Ootsuka, Kosaku Kinoshita. Two Cases of Levetiracetam-Induced Rhabdomyolysis With Low Levetiracetam Blood Concentrations. Cureus. 2025 Mar 20;17(3):e80877.

3) So Iwabuchi, Toru Imai, Naoto Suzuki, Hiroshi Nango, Taiki Nagatomo, Hiroko Miyagishi, Toyofumi Suzuki, Susumu Ootsuka, Yasuhiro Kosuge. Comparative evaluation of amiodarone and furosemide compatibility under different mixing conditions. Sci Rep. 17;15(1):36321. 2025

4) Katsuyuki Hazama, Toru Imai, Naohiro Tochikura, Shinsaku Washinosu, Susumu Ootsuka, Kazuhiko Hanada. Disproportionality analysis of adverse events in advanced lung cancer treated with atezolizumab plus platinum-based combination chemotherapy. J Pharm Health Care Sci. 2025 Dec 6;12(1):2

5) Takata R, Taga M, Nagai H, Nishita Y, Kobayashi H, Arakawa N, Imai T, Iinuma Y, Masauji T. Risk factors for linezolid-associated hyponatremia focused on differences between intravenous and oral administration: a single-center, retrospective study.J Pharm Health Care Sci. 2025 Jun 20;11(1):53.

6) Sekimoto M, Imai T, Suzuki Y, Ihara S, Chiba N, Otani N.Risk factors for fluid retention associated with clazosentan after subarachnoid hemorrhage: a retrospective study.Neurol Res. 2025 Oct 16:1-9.

-2024 年-

1) Tsukasa Kuwana, Kosaku Kinoshita, Minori Mizuochi,Jun Sato,Nobutaka Chiba,Takeshi Saito,Toru Imai. Administration of Intravenous Lipid Emulsion for Dextromethorphan Poisoning with Serotonin Syndrome: A Case Report Journal of Personalized Medicine in press

2) Kuwana T, Kinoshita K, Mizuochi M, Sato J, Chiba N, Saito T, Imai T. Administration of Intravenous Lipid Emulsion for Dextromethorphan Poisoning with Serotonin Syndrome: A Case Report. J Pers Med. 2024 Feb 24;14(3):242.

3) Kuwana T, Kinoshita K, Yamaya Y, Takahashi K, Yamaguchi J, Sakurai A, Imai T. The Time Course of Catecholamine Dose Reduction in Septic Shock as a Predictor of Bacterial Susceptibility to Empiric Antimicrobial Therapy: A Retrospective Observational Study. J Clin Med. 2024 Nov 4;13(21):6618.

-2023 年-

1) Shinya Tsuboi, Tatsuya Hayama, Katsuhiro Miura, Akihiro Uchiike, Daisuke Tsutsumi, Takashi Yamauchi, Yoshihiro Hatta, Susumu Ootsuka.Higher incidence of pegfilgrastim-induced bone pain in younger patients

receiving myelosuppressive chemotherapy: a real-world experience. J Pharm Health Care Sci. 2023 Jan 10;9(1):2

2) Naohiro Tochikura, Chiaki Matsumoto, So Iwabuchi, Hiroya Aso, Sakae Fukushima, Susumu Ootsuka, Nobuhiro Ooba, Masaki Ishihara, Hideto Nakajima, Hiroshi Umemura, Tomohiro Nakayama. Pharmacokinetic/pharmacodynamic analysis of vancomycin in patients with *Enterococcus faecium* bacteremia: A retrospective cohort study. Eur J Hosp Pharm. 2023 Mar 3: ejhpharm-2022-003672.

3) Akihiro Uchiike, Dai Tsurusaki, Norikazu Kikuchi, Toru Imai, Susumu Otsuka, Kyoko Motoyoshi, Motoki Arakawa, Shinji Hidaka. Effects of reduced edoxaban administration on bleeding risk and D-dimer levels in patients wearing elastic stockings after total hip arthroplasty: a retrospective cohort study. Int J Clin Pharmacol Ther. 2023 Mar 5

4) Akihiro Uchiike, Haruka Kono, Katsuhiro Miura, Tatsuya Hayama, Daisuke Tsutsumi, Shinya Tsuboi, Susumu Ohtsuka, Shinji Hidaka. Olanzapine treatment effectively relieves breakthrough chemotherapy-induced nausea and vomiting: a real-world experience. J Pharm Health Care Sci. 2023 Aug 1;9(1):24.

5) Taiki Hirata, Takashi Kawaguchi, Kanako Azuma, Ayako Torii, Hiroaki Usui, Soan Kim, Tatsuya Hayama, Daisuke Hirate, Yosuke Kawahara, Yuki Kumihashi, Tomomi Chisaka, Tetsuya Wako, Akinobu Yoshimura, Tempei Miyaji, Takuhiro YamaguchiRegistry study of immune-related adverse events using electronic patient-reported outcome in patients with cancer receiving immune checkpoint inhibitors: protocol for a multicentre cohort study. BMJ Open. 2023 Nov 22;13(11): e073724

-2022 年-

1) Kentaro Kodama, Toru Imai, Yasuo Asai, Yutaka Kozu, Kentaro Hayashi, Tetsuo Shimizu, Yasuhiro Gon, Susumu Ootsuka. Incidence and risk factors for hyperkalaemia in patients treated for COVID-19 with nafamostat mesylate. J Clin Pharm Ther. 2022;47(7):1070-1078.

2) Kazuhiro Kawabe, Toshimitsu Nakayama, Noriyasu Fukuoka, Yasutaka Sakamoto, Hirohito Goto, Taiichi Suzuki, Hirofumi Koike, Yukiko Sahashi, and Nobuhiro Ooba Prevalence of therapeutic drug monitoring and adherence to imatinib in chronic myeloid leukemia in Japan, International Journalof Clinical Pharmacology and Therapeutics, 60, 11, 489-796

3) Toru Imai, Katsuyuki Hazama, Yasuhiro Kosuge, Shinichiro Suzuki, and Susumu Ootsuka Preventive effect of rebamipide on NSAID-induced lower gastrointestinal tract injury using FAERS and JADER. Sci Rep. 2022 Feb 16;12(1):2631.

4) Masaru Matsuoka, Toru Imai, Sou Iwabuchi, Kosaku Kinoshita Successful treatment of amoxapine-induced intractable seizures with intravenous lipid emulsion Journal of Emergency Medicine. 2022 Nov 27; S0736-4679(22)00641-2

-2021 年-

1) Hirofumi Hamano, Chisato Mitsuhashi, Yoshiko Suzuki, Yoshito Zamami, Kaito Tsujinaka, Naoto Okada, Takahiro Niimura, Tatsuya Hayama, Toru Imai, Shunsuke Ishida, Kumiko Sakamoto, Mitsuhiro Goda, Kenshi Takechi, Kenta Yagi, Masayuki Chuma, Yuya Horinouchi, Kazuaki Shinomiya, Yasumasa Ikeda, Yasushi Kirino, Toshimi Nakamura, Hiroaki Yanagawa, Yasuhiro Hamada, Keisuke IshizawaEffects of Palonosetron on Nausea and Vomiting Induced by Multiple-Day Chemotherapy: A Retrospective Study.Biol Pharm Bull. 2021;44(4):478-484.

2) Daisuke Tsutsumi, Tatsuya Hayama, Katsuhiro Miura, Akihiro Uchiike, Shinya Tsuboi, Susumu Otsuka 2, Yoshihiro Hatta, Yukinaga Kishikawa. A novel rituximab administration protocol to minimize infusion-related adverse reactions in patients with B-cell lymphoma. Int J Clin Pharm. 2021 Dec 11. doi: 10.1007/s11096-021-01348-6.

3) Sakae Fukushima, Manami Oishi, Hiroya Aso, Kifumi Arai, Yuuki Sasaki, Naohiro Tochikura, Susumu Ootsuka, Noriyasu Fukuoka, Nobuhiro Ooba, Norikazu Kikuchi. Effects of angiotensin II receptor blockers on serum potassium level and hyperkalemia risk: retrospective single-centre analysis. European Journal of Hospital Pharmacy, 2021;0:1–6. Doi:10.1136/ejhpharm-2021-002739 (2021.6)

4) Satoru Asami, Mikana Suzuki, Toshimitsu Nakayama, Yasuyo Shimoda, Motofumi Miura, Koichi Kato, Eiichi Tokuda, Shinichi Ono, Takashi Kawakubo, Kenji Nishizawa, Kenzo Yamanaka, and Takashi Suzuki. Apoptotic Effects of a Thioether Analog of Vitamin K 3 in a Human Leukemia Cell LineInternational Journal of Toxicology. 2021 Dec;40(6):517-529

5) Masao Sekimoto, Toru Imai, Shinji Hidaka, Nobutaka Chiba, Atsushi Sakurai, Mitsumasa Hata, Norikazu Kikuchi. Elevated INR in a COVID-19 patient after concomitant administration of favipiravir and warfarin: A case report. J Clin Pharm Ther. 2021 Aug 2:10.1111/jcpt.13499.

-2020 年-

1) Nakayama T, Chuma M, Tochikura N, Iwabuchi S, Suzuki S, Matsumoto C, Imai T, Hamada T, Nakagawa M, Takahashi H, Uchino Y, Miura K, Iriyama N, Hatta Y, Takei M, Kimura T. Increased Arbekacin Clearance in Patients With Febrile Neutropenia. Ther Drug Monit. 42:133-138,2020.

2) Nobuhiro Ooba, Rira Iwahashi, Akiko Nogami, Toshimitsu Nakayama, Atsushi Kanno, Naohiro Tochikura, Susumu Ootsuka, Noriyasu Fukuoka. Comparison between high and low potency statins in the incidence of open-angle glaucoma: A retrospective cohort study in Japanese working-age population.PLoS One.2020;15(8):e0237617

-2019 年-

1) Chuma M, Makishima M, Imai T, Tochikura N, Suzuki S, Kuwana T, Sawada N, Iwabuchi S, Sekimoto M, Nakayama T, Sakaue T, Kikuchi N, Yoshida Y, Kinoshita K. Relationship between hemoglobin levels and vancomycin clearance in patients with sepsis. Eur J Clin Pharmacol. 75:929-937,2019.

2) Uejima K, Hayasaka M, Kato J, Sakata W, Otsuka S, Watanabe F, Yoshida Y, Kamei M Hospital–pharmacy cooperative training and drug-taking compliance in outpatients with chronic pain: a case–control study. Integrated Pharmacy Research and practice. 8:63-74, 2019.

3) Iida A, Naito H, Yorifuji T, Zamami Y, Yamada A, Koga T, Imai T, Sendo T, Nakao A, Ichiba S. Factors Affecting the Absorption of Midazolam to the Extracorporeal Membrane Oxygenation Circuit. Acta Med Okayama. 73(2):101-107,2019.

4) Zamami Y, Niimura T, Koyama T, Shigemi Y, Izawa-Ishizawa Y, Morita M, Ohshima A, Harada K, Imai T, Hagiwara H, Okada N, Goda M, Takechi K, Chuma M, Kondo Y, Tsuchiya K, Hinotsu S, Kano MR, Ishizawa K. Search for therapeutic agents for cardiac arrest using a drug discovery tool and large-scale medical information database. Front Pharmacol. 10:1257, 2019.

-2018 年-

1) Chuma M, Makishima M, Imai T, Tochikura N, Suzuki S, Kuwana T, Sawada N, Komatsu T, Sakaue T, Kikuchi N, Yoshida Y, Kinoshita K. Relationship Between Initial Vancomycin Trough Levels and Early-Onset Vancomycin-Associated Nephrotoxicity in Critically Ill Patients. Ther Drug Monit. 38:109-114,2018.

2) Hayama Tatsuya, Sakurai Kenichi, Miura Katsuhiro, Washinosu Shinsaku, Tsuboi Shinya, Uchiike Akihiro, Yoshida Yoshikazu, Takei Masami. Optimal timing for pegfilgrastim administration in Japanese breast cancer patients receiving intermediate-risk chemotherapies. Int J Clin Pharm. 40(5):997-1000,2018.

3) Niimura T, Zamami Y, Imai T, Ito T, Sagara H, Hiroyuki H, Esumi S, Takechi K, Imanishi M, Koyama T, Amano M, Kurata N, Kitamura Y, Nakura H, Sendo T, Ishizawa K. Administration of Kampo medicine through a tube at an advanced critical carecente. J Med Invest. 65(1.2):32-36,2018.

4) Niimura T, Zamami Z, Koyama T, Izawa-Ishizawa Y, Miyake M, Koga T, Harada K, Ohshima A, Imai T, Kondo Y, Imanishi M, Takechi K, Fukushima K, Horinouchi Y, Ikeda Y, Fujino H, Tsuchiya K, Tamaki T, Hinotsu S, Mitsunobu R. K, Ishizawa K. Hydrocortisone Administration Was Associated With Improved Survival in Japanese Patients With Cardiac Arrest. Sci Rep. 7(1):17919-3,2017.

5) Niimura T, Zamami Y, Imai T, Nagao K, Kayano M, Sagara H, Goda M, Okada M, Chuma M, Takechi K, Imanishi M, Koyama T, Koga T, Nakura H, Sendo T, Ishizawa K. Evaluation of the Benefits of De-Escalation for Patients With Sepsis in the Emergency Intensive Care Unit. J Pharm Pharm Sci. 21(1):54-59,2018.

6) Zamami Y, Kouno Y, Niimura T, Chuma M, Imai T, Mitsui M, Koyama T, Kayano M, Okada N, Hamano H, Goda M, Imanishi M, Takechi K, Horinouchi Y, Kondo Y, Yanagawa H, Kitamura Y, Sendo T, Ujike Y, Ishizawa K. The relationship between administration of nicardipine hydrochloride and development of delirium in patients on mechanical ventilation. Pharmazie. 73(12) : 740-743,2018.

-2017 年-

1) Chuma M, Makishima M, Imai T, Tochikura N, Sakaue T, Kikuchi N, Kinoshita K, Kaburaki M, Yoshida Y. Duration of Systemic Inflammatory Response Syndrome Influences Serum Vancomycin Concentration in Patients With Sepsis. Clin Ther. 38:2598-2609,2017.

2) Hayama T, Miura K, Uchiike A, Nakagawa M, Tsutsumi D, Sakagami M, Yoshida Y, Takei M. A clinical prediction model for infusion-related reactions to rituximab in patients with Bcell lymphomas. Int J Clin Pharm. 39(2):380-385,2017.

3) Sato S, Zamami Y, Imai T, Tanaka S, Koyama T, Niimura T, Chuma M, Koga T, Takechi K, Kurata Y, Kondo Y, Izawa-Ishizawa Y, Sendo T, Nakura H, Ishizawa K. Meta-analysis of the efficacies of amiodarone and nifekalant in shock-resistant ventricular fibrillation and pulseless ventricular tachycardia. Scientific Reports. 7(1):12683, 2017

-2016 年-

1) Imai T, Kosuge Y, Saito, H, Uchiyama T, Wada T, Shimba S, Ishige K, Miyairi S, Makishima M, Ito Y Neuroprotective effect of *S*-allyl-L-cysteine derivatives against endoplasmic reticulum stress-induced cytotoxicity is independent of calpain inhibition. Journal of Pharmacological Sciences. 130:185-188,2016

2) Yoshito Zamami; Toru Imai; Masaki Imanishi; Kenshi Takechi; Naoko Shiraishi; Toshihiro Koyama; Hidenori Sagara; Yasukazu Shiino; Hironori Nakura; Toshiaki Sendo; Keisuke Ishizawa. Evaluation of a Pharmaceutical Life-saving Skills Training Program using the Customer Satisfaction Analysis. J Pharm Health Care Sci. 2(1), 21, 2016

-2014 年-

1) Imai T, Kosuge Y, Endo-Umeda K, Miyagishi H, Ishige K, Makishima M, Ito Y. Protective effect of S-allyl-L-cysteine against endoplasmic reticulum stress-induced neuronal death is mediated by inhibition of calpain. Amino Acids. 46(2), 385-393,2014.

2) Mazaki T, Mado K, Masuda H, Shiono M, Tochikura N, Kaburagi M.A. randomized trial of antibiotic prophylaxis for the prevention of surgical site infection after open mesh-plug hernia repair. Am J Surg. 207(4):476-86, 2014.

-2013 年-

1) Hayasaka M, Takahashi Y, Nishida Y, Yoshida Y, Hidaka S, and Asai S. Comparative effect of clopidogrel plus aspirin and aspirin monotherapy on hematological parameters using propensity score matching, Vascular Health and Risk Management, 9, 65-70, 2013.

2) Ogawa R, Kobayashi S, Sasaki Y, Makimura M, Echizen H. Population pharmacokinetic and pharmacodynamic analyses of teicoplanin in Japanese patients with systemic MRSA infection. Int J Clin Pharmacol Ther. 51(5):357-66, 2013.

-2012 年-

1) Kitano T, Yoda H, Tabata K, Miura M, Toriyama M, Motohashi S, Suzuki T. Vitamin K3 analogs induce selective tumor cytotoxicity in neuroblastoma, Biol Pharm Bull. ;35(4):617-23.,2012.

2) Chuma M, Endo-Umeda K, Shimba S, Yamada S, Makishima M.Hairless modulates ligand-dependent activation of the vitamin D receptor-retinoid X receptor heterodimer. Biol Pharm Bull. 35(4):582-587, 2012.

-2011 年-

1) Hayama T, Tabata K, Uchiyama T, Fujimoto Y, Suzuki T. Ferrearin C induces apoptosis via heme oxygenase-1 (HO-1) induction in neuroblastoma. Journal of Natural Medicines.65(3-4):431-9, 2011.

2) Kosuge Y, Taniguchi Y, Imai T, Ishige K, Ito Y. Neuroprotective effect of mithramycin against endoplasmic reticulum stress-induced neurotoxicity in organotypic hippocampal slice cultures. Neuropharmacology 61(1-2):252-61, 2011.

2．原著論文（国内誌）

-2026 年-

1) 涌嶋伴之助、吉川博、段林正明、今井徹、岩渕聡、松山祐、川島裕明、木本有香、齋藤靖弘、坂口結斗、立石裕樹、門口直仁、山崎綾子、古谷晃紀、服部雄司、添田博、畝井浩子、織田順、鈴木昭夫.救急外来における薬剤師の業務体制ごとの業務実態に関する調査.日本病院薬剤師会雑誌 62(2): 209-216, 2026.

-2025 年-

1) 牛山美保子，加藤実，松井美貴，坂田和佳子，上島健太郎.がん看護専門看護師の介入を契機に,オピオイドの中止に至ったがんサバイバーの 1 症例.ペインクリニック第 46 巻,8 号,p.891-897,2025 年

-2023 年-

1) 立石裕樹，今井 徹，川邊一寛，玉造竜郎，安藝敬生，今中翔一，奥川寛，中馬真幸，前田幹広 ．集中治療室における注射薬の希釈濃度統一に関する実態調査．医療薬学， 第 49 巻 第 11 号, 412-418, 2023 年

-2022 年-

1) 小田桐功武，高木香菜子，鷲巣晋作，細谷幸紀，内池明博，坪井伸也，葉山達也，權寧博，林宏行，大塚進
EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺がんにおける erlotinib の効果および毒性に対する体表面積の影響
日本臨床腫瘍薬学会雑誌 第 24 巻:10-16、2022 年

2) 関本(西村)明子、今井 徹、鈴木 慎一郎、大塚 進、加藤 実
テキストマイニングの手法を用いた痛みセンターにおける薬剤師の役割の評価
日本社会薬学会．第 41 巻 1 号,28-31,2022 年

-2021 年-

1) Sakae Fukushima, Toru Imai, Taku Fujieda, Dai Tsurusaki, Shinji Hidaka, Norikazu Kikuchi. A Study on the Safety of Long-Term Magnesium Oxide Administration in Elderly Patients with Impaired Renal Function. 医薬品情報学. 23 巻 3 号 p. 129-134.2021 年

-2020 年-

1) 松田健剛，長野伸彦，秋本卓哉，土方みどり，清宮綾子，加藤亮太，岡橋彩，中山貴裕，小松篤史，川名敬，森岡一朗.ジドブジンとネビラピンの 2 剤併用療法を含む母子感染予防策により予防できた無治療のヒト免疫不全ウイルス感染母体から出生した新生児の 1 例.日本周産期・新生児医学会雑誌. 56 巻 3 号. 457-462.2020 年

2) 平田（中原）久美子，鈴木慎一郎，医薬品副作用報告データベース（JADER）を用いたジスチグミンによるコリン作動性症候群に対する添付文書の改訂の効果に関する検討，社会薬学，第 39 巻，第 1 号，19-22，2020 年

-2019 年-

1) 上島 健太郎，早坂 正敏，坂田 和佳子，岸 美智子，吉田 善一，亀井 美和子．在宅緩和領域における薬薬連携を目的とした集団研修の傾向と効果の考察．日本緩和医療薬学雑誌 12(1), 29-36, 2019.

-2018 年-

1) 菊池憲和，間勝之，今井徹，鈴木慎一郎，吉田善一，日髙慎二． Assessment of the relationship between hypnotics and delirium using the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database. YAKUGAKU ZASSHI, 138(7):985-990, 2018.

2) 飯塚俊介，葉山達也，蒲谷有望，堤大輔，大塚英希，早坂正敏，櫻井健一，菊池憲和．乳癌術前・術後補助化学療法に対する相対用量強度の影響に関する研究．医療薬学 45 (8), 485-490, 2018.

3) 今井徹，菊池憲和，篠原高雄，添田博，玉造竜郎，中馬真幸，西澤健司， 岩元理絵，峯村純子， 渡邉暁洋．救急・集中治療の薬剤師の発展を目指した臨床救急医療薬学研究会の取り組み．日本臨床救急医学会誌 21(6), 735-739, 2018 .

-2017 年-

1) 飯塚俊介，葉山達也，内池明博，堤 大輔，小田桐功武，中山敏光，早坂正敏， 村松 高，橋本 修，吉田善一. EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺がんにおける gefitinib の治療効果に対する制酸剤併用の影響．医療薬学 43 (3), 145-153, 2017.

2) 入口慎史，今井徹，田中昌代，田沼道也，折井孝男，加藤敏明．発熱性好中球減少症患者に対する経験的抗真菌薬治療の抗真菌スペクトル別の有効性に関するメタアナリシス. YAKUGAKU ZASSHI 137 (9), 1117-1127, 2017.

-2016 年-

1) 岩渕聡, 葉山達也, 内池明博 ,堤 大輔 ,早坂正敏 ,吉田善一. 尿蛋白 2+ 発現時における bevacizumab 投与継続が与える影響の検討. 日本病院薬剤師会雑誌, 52(2), 197-201, 2016

2) 菊池憲和　今井徹　中馬真幸　鏑木盛雄　吉田善一. 救急認定薬剤師の現状と今後の課題. 日本臨床救急医学会雑誌, 19, 46-51, 2016

3) 今井 徹, 吉田善一. 救命救急センターにおける救急医療に対する薬剤師の関与. YAKUGAKU ZASSHI, 136(7), 962-972, 2016

4) 座間味義人, 小山敏弘, 今井徹, 武本あかね, 相良英憲, 千堂年昭, 名倉弘哲. 救急医療における薬物治療に主眼を置いた薬学教育. YAKUGAKU ZASSHI, 136(7), 987-991, 2016

5) 調子裕美, 高橋雅弘, 佐々木祐樹, 小川 竜一, 越前宏俊. ゲンタマイシン 1 日 1 回投与法による感染症治療を受けた日本人患者の TDM データを用いた母集団薬物動態解析. TDM 研究, 33(3), 91-99, 2016

-2015 年-

1) 栃倉尚広, 中馬真幸, 今井 徹, 菊池憲和, 小林広和, 伊藤美和子,下口和雄, 矢越美智子, 矢内 充. 当院における Antimicrobial stewardship program の取り組み-多職種連携による抗 MRSA 薬適正使用の推進-. 日本環境感染学会誌,30(1),56-62,2015.

2) 座間味義人, 相良英憲, 今井徹, 原直己, 武本あかね, 小山敏広, 名和秀起, 北村 佳久, 氏家良人, 千堂年昭. 薬物療法の実践に重点を置いた薬学生向け救命実技演習の評価. 日本注射薬臨床情報学会雑誌　2015;4: 11-21.

3) 入口慎史, 今井徹, 吉田善一, 折井孝男. 全身性炎症反応症候群 (SIRS) がバンコマイシンの薬物動態へ与える影響についての検討. YAKUGAKU ZASSHI 135(5); 745-751, 2015.

-2013 年-

1) 入口慎史, 今井徹, 折井孝男. MRSA 敗血症・肺炎の治療マネジメントに関する検討- 抗 MRSA 補助薬の有効性に関する文献的考察-. 日本医療マネジメント学会雑誌 13(4), 208-214, 2013.

-2012 年-

1) 早坂正敏, 藏内恭子, 葉山達也, 吉田善一, 丹正勝久.救命救急センターの初療時における薬剤師 24 時間対応の必要性, 医療薬学, 38(5), 313-321, 2012.

2) 葉山達也, 早坂正敏, 小沼芽生, 中山敏光, 天野定雄, 吉田善一.Docetaxel 希釈濃度による過敏症発現率の相違に及ぼす検討, 医療薬学,38(9),547-558,2012.

3) 今井徹, 中馬真幸, 蔵内恭子, 菊池憲和, 吉田善一, 丹正勝久. 救命救急センターにおける医薬品情報提供に基づく薬剤師 24 時間常駐の評価. 日本病院薬剤師会雑誌,48(3),319-322 ,2012.

4) SUZUKI S, HOSHINO T, KOINUMA M, KAWAGUCHI T, SASAKI Y, OTSUKA S, YOSHIDA Y, NIREI K, MORIYAMA M, NAKAMURA H. Prediction of the lowest level of thrombocytopenia to avoid thrombocytopenia-related treatment discontinuation in PEG-IFNα-2b/RBV combination therapy , Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 38(1) , 43-50,2012.

-2011 年-

1) 平井利幸, 今井徹, 早坂正敏, 関利一. G-CSF 製剤の投与開始時期が化学療法による骨髄抑制および投与スケジュールに与える影響－進行大腸がんに対する一次療法 FOLFOX4 療法における検討－, 医療薬学, 37(2), 127-131, 2011.

2) 今井徹, 佐々木祐樹, 菊池憲和, 吉田善一, 矢越美智子, 伊藤美和子, 矢内充. Pharmacokinetics-Pharmacodynamics 理論に基づくカルバペネム系抗菌薬メロペネムの使用と緑膿菌耐性化の関係. 日本病院薬剤師会雑誌 47(3), 309-312 , 2011.

3．執筆（総説，著書など）

-2026 年-

1) 今井徹　初療室における薬剤師業務の実際.東京都病院薬剤師会雑誌　Vol.75.No2 (2026)13-15

2) 葉山達也（分担執筆）　がん薬物療法時の実践的支持療法～ガイドラインにも載っていないプロの技術～ カルボプラチンの投与量計算（金芳堂 2026 年 1 月）

3) 葉山達也（編集・分担執筆）薬剤師のためのがん資格試験対策問題集（医学書院 2026 年 3 月）

4) 葉山達也（分担執筆）　がん薬物療法 今さら聞けないキホンと裏ワザ・小ワザ ａ プラチナ系薬 b フルオロウラシル系薬剤（5-FU、Cape、S-1、UFT） メジカルビュー2026 年

5) 葉山達也　薬剤師による「診察前」面談とは？！消化器クリニカルアップデート　クローズアップメディカルスタッフ医学図書出版株式会社 2026 年 5 月

-2025 年-

1) 葉山達也（分担執筆）　がん薬剤師外来マニュアル 「悪性リンパ腫の病態生理」 「ポラツズマブベドチン -リツキシマブ- CHP」 医学書院 2025 年

3) 内池明博（分担執筆）　がん薬剤師外来マニュアル 「ラムシルマブ+nab-パクリタキセル」　医学書院, 2025 年

4) 今井徹（編者）　クリティカルケア薬 Essence & Practice　Update for 2025-2027 じほう 2025 年

5) 今井徹　集中治療室の医療安全のために薬剤師が知っておくべきこ ICU と CCU 49(1): 21-28, 2025.

6) 小玉健太郎（分担執筆）　クリティカルケア薬 Essence & Practice Update for 2025-27 じほう 2025 年

7) 内池明博（分担執筆）　月刊誌「薬局」みんなどうやってる？がん薬剤師外来 <第 1 回> がん薬剤師外来立ち上げの際，院内での周知はどのように行いましたか？ 南山堂 2025 年 1 月

8) 内池明博（分担執筆）　月刊誌「薬局」みんなどうやってる？がん薬剤師外来 <第 2 回> どこから，がん薬剤師外来を始めればよいでしょうか？ 南山堂 2025 年 2 月

9) 内池明博（分担執筆）　月刊誌「薬局」みんなどうやってる？がん薬剤師外来 <第 3 回> がん薬剤師外来を始めたきっかけは何ですか？ 南山堂 2025 年 3 月

10) 今井徹（編者）　病棟・ICU・救急で使える -クリティカルケア薬 Essence & Practice-　Update for 2025-2027 じほう 2025 年

11) 今井徹　集中治療室の医療安全のために薬剤師が知っておくべきこと.ICU と CCU 49(1): 21-28, 2025.

-2024 年-

1) 鷲巣晋作・坪井伸也・葉山達也 月刊薬事　New Topics 「腎細胞がんの一次治療と展望」　2024 年

2) 葉山達也　がん薬物療法の引き出し 第 2 版「悪性リンパ腫」「白血病」医学書院 2024 年

3) 葉山達也　がん薬物療法副作用管理マニュアル（改訂 3 版）「悪心・嘔吐」 医学書院, 2024 年

4) 葉山達也　月刊誌「薬局」 第 3 回 ガチではじめるマジでわかる経口抗がん薬 「ベージニオ/下痢」　南山堂 2024 年

5) 葉山達也　月刊誌「薬局」 外来がん治療「病-薬連携」 「副作用重症度評価」はじめの一歩　休薬？継続？Grade2 を判定する　南山堂 2024 年

6) 栃倉尚広　明日からの AST 活動が変わる!　抗菌薬適正使用の実践レッスン：溶解液、安定性、配合変化. INFECTION CONTROL、2024 年 2 月

7) 栃倉尚広　明日からの AST 活動が変わる!　抗菌薬適正使用の実践レッスン：TDM 対象抗菌薬、採血のタイミング. INFECTION CONTROL、2024 年 4 月

8) 葉山達也　月刊薬事　増刊号「先輩薬剤師が臨床 5 年目までに知っておきたかった病棟薬剤管理ノート」「副作用報告に必要な情報は？」　じほう 2024 年 7 月増刊号.

9) 栃倉尚広　明日からの AST 活動が変わる!　抗菌薬適正使用の実践レッスン：発熱性好中球減少症. INFECTION CONTROL、2024 年 6 月

10) 栃倉尚広　明日からの AST 活動が変わる!　抗菌薬適正使用の実践レッスン：内服抗菌薬、長期抑制療法. INFECTION CONTROL、2024 年 8 月

11) 栃倉尚広　明日からの AST 活動が変わる!　抗菌薬適正使用の実践レッスン：デ・エスカレーション(de-escalation)、エンピリック治療、広域スペクトル抗菌薬. INFECTION CONTROL2024 年 10 月

12) 栃倉尚広　明日からの AST 活動が変わる!　抗菌薬適正使用の実践レッスン：市中肺炎. INFECTION CONTROL、2024 年 12 月

13) 今井徹　臨床推論　月刊薬事　7 月増刊号　じほう　2024 年

14) 坂田和佳子　知っておきたい子どもの痛み～予防法と痛みへのアプローチ～
(分担執筆)「薬剤師が語る～鎮痛薬にも適材適所がある～」チャイルドヘルス Vol.27No.10:49-50(2024)

-2023 年-

1) 栃倉尚広　2 ページで理解する標準薬物治療ファイル　改訂 4 版 「感染性心内膜炎」
編集：日本アプライド・セラピューティクス学会, 南山堂, 2023 年発刊

2) 栃倉尚広　2 ページで理解する標準薬物治療ファイル　改訂 4 版 「脂質異常症」
編集：日本アプライド・セラピューティクス学会, 南山堂, 2023 年発刊

3) 松本千明　2 ページで理解する標準薬物治療ファイル　改訂 4 版 「慢性便秘症」
編集：日本アプライド・セラピューティクス学会, 南山堂, 2023 年発刊

4) 鷲巣晋作　2 ページで理解する　標準薬物治療ファイル 改訂 4 版 「腎細胞がん」
編集：日本アプライド・セラピューティクス学会, 南山堂, 2023 年発刊

5) 今井徹・麻生洋哉　救急医学 2023 年 2 月号「特集：薬のエキスパートに学ぶ；見逃さない副社王・相互作用」.へるす出版.2023 年　脂質異常症治療薬

6) 葉山達也　月刊薬事　New Topics 「未治療びまん性大細胞型非ホジキンリンパ腫に対する 20 年ぶりとなる新たな標準治療」　2023 年

7) 坪井伸也・葉山達也　月刊薬事　New Topics 「卵巣がんに対する維持療法の展望」　2023 年

8) 堤大輔（分担執筆）. ミスよけ調剤 60,000 枚の処方箋から導くエラー対策. 南山堂. 2023 年 8 月

-2022 年-

1) 葉山達也　ハイリスク薬のフォローアップ「間質性肺炎に対する副腎皮質ステロイド」じほう 2022 年

2) 葉山達也　臨床腫瘍薬学　第 2 版　「非ホジキンリンパ腫」じほう 2022 年発刊

3) 葉山達也　がん化学療法レジメン管理マニュアル 第 4 版　「カバジタキセル」医学書院 2022 年

4) 岩渕聡・葉山達也　薬局　薬剤師力の「型」―新たな思考と行動プランを手に入れろ！
「薬剤性の副作用を薬剤師が否定せよ！」　南山堂 2022 年 7 月

5) 葉山達也　月刊薬事　「急な提案・問い合わせに慌てない！」がん患者に使用される支持療法薬
ペグフィルグラスチム(ジーラスタ注)　じほう 2022 年 7 月発刊

6) 葉山達也　月刊薬事　「入院患者マネジメントの 1 冊目」免疫不全患者　じほう 2022 年 10 月発刊

7) 栃倉尚広　感染対策、抗菌薬適正使用に携わる薬剤師のための ICT /AST ラウンドガイド
第 3 版. 編集：私立医科大学病院感染対策協議会/薬剤師専門職部会. 2022 年

8) 小玉健太郎　コロナ禍で進化した薬剤師業務. ファルマシア, 2022 年

9) 中山貴裕　月刊薬事 11 月号特集企画 緊急呼び出しで焦らないために ABCD から考える緊急・急変時の薬の使い方. じほう, 2022 年 11 月

10) 湯本一成, 今井徹　月刊薬事 64(5)；167-168. ジャーナルクラブの広場 院内心停止患者の自発循環再開に対するバソプレシンおよびメチルプレドニゾロンの効果. 2022 年

11) 今井徹　救急認定薬剤師の現状と展望 - さらなる貢献分野として救急外来での初期診療への参画 . ICU

と CCU 46(6): 361-365, 2022.　医学図書出版, 2022 年

12) 今井徹　電解質異常　月刊薬事 臨時増刊号 Vol64, No14, 214-220　じほう, 2022 年

13) 今井徹（編者）　「これ副作用？」と思ったときの 3 つの推論ステップ 副作用のみかた・考えかた 2 じほう, 2022 年

14) 若松萌実　薬局　もうドキドキしない！薬剤師のための心電図と不整脈のはなし. 「ここに注目！チャネルのはたらきと抗不整脈薬」　南山堂, 2022 年 10 月

-2021 年-

1) 葉山達也　がん薬物療法副作用管理マニュアル（改訂 2 版）「下痢」. 医学書院, 2021 年.

2) 葉山達也　薬剤師が実践すべき副作用へのロジカル・アプローチ「血圧異常」. 南江堂, 2021 年.

3) 葉山達也（書評）　医薬品情報を提供するまでのロジカル・アプローチを視覚的に理解できる 医学書院 2021 年

4) 今井徹　薬学臨床推論　南江堂　2021 年

5) 葉山達也　がん看護第 27 巻 2 号「明日から使える免疫関連有害事象マネジメント～免疫チェックポイント阻害薬の看護ケア～「チーム医療：薬剤師の立場から」　南江堂 2021 年発刊予定

6) 藤條拓　月間薬事 4 月号臨時増刊号（Q&A・8.薬物中毒への治療薬の適切な投与方法）.じほう.2021 年

7) 今井徹（編者）　クリティカルケア薬 Essence & Practice　じほう　2021 年 9 月

8) 関本真雄・今井徹　Journal Club：集中治療　「COVID-19 患者におけるトシリズマブの有効性」月刊薬事　Vol63, No1 144-145　2021 年

9) 澤村順哉・今井徹　ジャーナルクラブの広場. 薬事 63(6) ; 1162-1163, 2021.

-2020 年-

1) 葉山達也, 川上和宜. プロフェッショナル EYE 専門薬剤師からみた勘所：発熱性好中球減少症をより高い精度で予防する～患者面談にもエビデンスを～. 薬局 71(2): 145-156, 2020.

2) 上島健太郎, 坂田和佳子. 慢性疼痛に真摯に向き合う薬剤師. 東京都病院薬剤師会雑誌 42(2) ; 40-43, 2020.

3) 鈴木慎一郎, 今井徹. 急性期医療のケア移行_栄養療法. 月刊薬事 62(1) ; 61-66, 2020.

4) 間勝之, 今井徹. ジャーナルクラブの広場 重症患者におけるデクスメデトミジンの早期鎮静. 月刊薬事 62(4) ; 168-169, 2020.

5) 葉山達也（分担執筆）. がん薬物療法の引き出し「悪性リンパ腫」 医学書院, 2020 年 4 月.

6) 中山貴裕. 月間薬事 4 月号特集（予防的薬物療法）.じほう.2020 年

7) 栃倉尚広（分担執筆）. 医薬品の採用と選択　クリニカルクエスチョン医薬品情報学（第 1 版）、2020 年

8) 今井徹　けいれん, 心室細動を来したカフェイン中毒　じほう　2020 年

9) 坪井伸也、0 から 1 を生み出す力、東京都病院薬剤師会雑誌、2020 年

10) 藤條拓 月間薬事 4 月号特集（ Q&A・8.抗菌薬・抗真菌薬・抗ウィルス薬に関する Q&A　）.じほう.2020 年

-2019 年-

1) 鈴木慎一郎, 木村高久. そこが知りたい医薬情報 CAR-T 療法について. 東京都病院薬剤師会雑誌 68(2) ; 63-64, 2019.

2) 葉山達也. 目から鱗のがん薬物療法 – 薬学的視点からみたケーススタディ：リツキシマブ – Infusion-related reactions（IRRs）対策の再構築と個別化. Cancer Board Square 5(1); 178-180, 2019.

3) 葉山達也. 専門薬剤師リレーエッセイ. 医療薬学 45(9), 2019.

4) 今井徹. システマティックレビューと医薬品副作用データベース JADER を用いたドラッグリポジショニング研究. ファルマシア 55(3); 239-241, 2019.

5) 内池明博（分担執筆）. 臨床腫瘍薬学. じほう, 2019 年 3 月.

6) 堤大輔(分担執筆). 臨床腫瘍薬学. じほう, 2019 年 3 月.

7) 葉山達也（分担執筆）. がん化学療法レジメン管理マニュアル. 医学書院, 2019 年 8 月.

8) 葉山達也（分担執筆）. 整理して理解する抗がん薬. じほう, 2019 年 9 月.

9) 今井徹, 岩渕聡, 木村高久. 都市型災害に対する東京 DMAT 隊員としての薬剤師の可能性. 都病薬誌 68(5); 29-30, 2019.

10) 葉山達也（分担執筆）. アドヒアランスに着目した経口抗がん薬服薬支援マニュアル. 南山堂, 2019 年 10 月.

11) 葉山達也（分担執筆）. 症例で身につける 臨床薬学ハンドブック（改訂 3 版）. 羊土社, 2019 年 10 月.

12) 栃倉尚広（分担執筆）. 2 ページで理解する標準薬物治療ファイル（改訂 3 版）, 編集：日本アプライド・セラピューティクス学会, 南山堂, 2019 年 7 月.

13) 上島健太郎, 加藤実. 痛み診療における薬剤師の役割. ペインクリニック 40(8) ; 1053-1062, 2019.

14) 関本真雄, 今井徹. Journal Club：集中治療「小児のけいれん性てんかん重積状態に対する二次治療としてのレベチラセタムの有用性-多施設非盲検化ランダム化比較試験」. 月刊薬事 61(12); 2209-2210, 2019.

15) 中山敏光（分担執筆）. 薬学生のための英語会話. 東京化学同人, 2019 年 12 月.

16) 堤大輔, 花香淳一, 脇本麻美, 村田勇人, 丹原由希, 中田千博, 河野友昭, 林啓文, 川澄賢司, 櫻井洋臣, 濃沼政美, 近藤直樹. 外来がん治療部門における病院薬剤師業務の実態調査. 日本臨床腫瘍薬学会雑誌 11; 22-27, 2019.

17) 岩渕聡, 今井徹. 救急・集中治療　重症患者に対する薬学的支援の実践ポイント 電解質異常. 薬局 70(13); 95-103, 2019.

18) 上島健太郎, 坂田和佳子. 慢性疼痛に真摯に向き合う薬剤師. 東京都病院薬剤師会雑誌 41(11) ; 40-44, 2019.

19) 上島健太郎, 坂田和佳子. 慢性疼痛に真摯に向き合う薬剤師. 東京都病院薬剤師会雑誌 41(12) ; 42-45, 2019.

-2018 年-

1) 上原秀一郎, 亀山久美子, 鈴木慎一郎, 松崎彩花, 中村仁美, 山口順子. 経腸栄養使用時に有効な漢方薬. 臨床栄養 132(3): 284-287, 2018.
2) 小林直子（分担執筆）. 実践事前実習テキスト(上)(下)-8 大疾患から 3 例から臨床を考える-. 京都廣川書店, 2018 年 3 月.

3) 堤大輔(分担執筆). 薬学生のための実務実習事前学習テキスト 改訂 2 版. ネオメディカル, 2018 年 3 月

4) 鈴木慎一郎, 中馬真幸. ジャーナルクラブの広場. 薬事 60(13) ; 120-121, 2018.

5) 大輔(編集分担). こどもと薬の Q&A　続. じほう, 2018 年 9 月

6) 今井徹(分担著者). 3 ステップで推論する副作用のみかた･考えかた. じほう, 2018 年 8 月

-2017 年-

1) 今井徹. それって本当に副作用ですか？この痙攣はニューキノロン系抗菌薬誘発性痙攣. 月刊薬事 59(5): 108-115, 2017.

2) 葉山達也（分担執筆）. 過敏症 がん薬物療法副作用管理マニュアル. 医学書院, 2017 年 10 月.

3) 葉山達也（分担執筆）.「抗 CD20 抗体製剤」「抗 HER2 抗体製剤」「抗 CD52 抗体製剤」 臨床腫瘍薬学. じほう, 2017 年 11 月.

4) 今井徹. 救急集中治療の薬物治療を考える: 侵襲が薬物治療に及ぼす影響について. YAKUGAKU ZASSHI 137(12): 1427-1430, 2017.

5) 栃倉尚広(分担執筆) . 感染対策に携わる薬剤師のための ICT ラウンドガイド 第 2 版－チェックポイントとその理由－. 編集：私立医科大学病院感染対策協議会・薬剤師専門職部会. 2017 年 4 月

-2016 年-

1) 葉山達也. 「患者（命）を救う」薬剤師を目指すそれぞれの想い 東京都薬剤師会　都薬雑誌　Vol.38 No.3,17

2) 葉山達也. がん治療のための薬薬連携　調剤と情報 2016 年 3 月臨時増刊号

3) 中馬真幸. 「患者を救う」薬剤師を目指す救急専任薬剤師の想い 東京都薬剤師会　都薬雑誌　Vol.38 No.3, 18-20

4) 本石寛行, 栃倉尚広. 病棟に行く前に知っておきたい Common Disease 尿路感染症 [単純性]. 月刊薬事 58(6): 1409-1417, 2016.

5) 本石寛行, 栃倉尚広. 病棟に行く前に知っておきたい Common Disease 尿路感染症 [複雑性]. 月刊薬事 58(6): 1418-1427, 2016.

6) 中馬真幸, 鈴木慎一郎. 重症患者における抗菌薬投与量の適正化を目指して. 月刊薬事 58(11): 51-56, 2016.

7) 栃倉尚広, 中田和宏, 金井紀仁, 佐村 優. 脂質異常症における科学的・合理的な薬物治療を考える－心血管イベントの

リスク評価と一次予防－. アプライド・セラピューティクス 8(2): 21-28, 2016.

8) 今井徹. 救急医療と災害医療！！大規模災害で活動できる薬剤師になるために邁進する日々. 都薬雑誌 38(7): 24-27, 2016.

9) 今井徹. 目指せ！ICU における薬物治療の標準化　電解質の補正（低 K 血症・低 Mg 血症・低 P 血症・低 Ca 血症）. 月刊薬事 58(11): 41-45, 2016.

-2015 年-

1）葉山達也. がん患者でみられる副作用 浮腫 調剤と情報 2015 年 10 月号[vol.21 No.12]

2）栃倉尚広（分担執筆） 2 ページで理解する標準薬物治療ファイル（改訂 2 版），編集：日本アプライド・セラピューティクス学会，2015 年 12 月，南山堂

-2014 年-

1）今井徹. 救急領域における薬学的臨床推論の実践. 薬事日報春季特集「医療と薬剤」号, 2015, 薬事日報社

2）今井徹 (分担著者). 救急薬学　薬のプロとしての資質とその在り方　Vol. 1. 2015 年 3 月 23 日発行　京都廣川書店

3）坂神宏，栃倉尚広，佐々木祐樹，岩渕聡，菊池憲和，吉田善一. 救命救急センターにおいて汎用される注射薬の「配合変化確認シート」の活用と評価. アプライド・セラピューティクス　6(1)：66-69，2014.

4）中馬真幸，今井徹，栃倉尚広，菊池憲和，守谷俊，吉田善一. 血液ガス. 月刊薬局 65(2),202-207,2014.

5）中馬真幸(分担執筆)　感染対策に携わる薬剤師のための ICT ラウンドガイド －チェックポイントとその理由－. 編集：私立医科大学病院感染対策協議会・薬剤師専門職部会.2014 年 3 月

-2013 年-

1）中馬真幸，今井徹，菊池憲和，吉田善一. 救命救急センターにおける 24 時間体制の薬学的管理. 日本病院薬剤師会雑誌 49(12),1325-1327,2013.

-2012 年-

1) 中馬真幸，今井徹，菊池憲和，吉田善一，丹正勝久. 救急医療と薬剤師　特色ある薬剤師業務 救急医療におけるモニタリングシートの活用. 月刊薬事 53(6),51-56,2012.

2）中馬真幸，今井徹. 救急薬物治療ワークシート. 2012 年 7 月 10 日発行　じほう

3）栃倉尚広. ロタウイルスワクチンの導入がもたらす医療効果. ファルマシア 48：800，2012.

4）今井徹，織田順，田中聡，戸井千紘，峯村純子. 救急医療と薬剤師の現在・未来. 月刊薬事 54(3):19-26, 2012, じほう

-2011 年-

1) 今井徹，菊池憲和，吉田善一，丹正勝久. 中毒医療に求められる薬剤師 臨床でよく遭遇する急性中毒とその処置法. 月刊薬事 53(6): 51-56 , 2011, じほう

2）今井徹（分担著者）. 薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト. 2011 年 5 月 30 日発行　へるす出版

講演・学会発表

1．シンポジウム・セミナー・講演

-2026 年-

1) 内池明博　症例報告の評価・読み方聞き方．薬学介入と事例報告のための WEB 研修会(2026 年 3 月、web)

2) 岩渕聡　薬剤師視点による抗菌薬関連性腸炎（AAC）対策―多職種連携で進める切れ目のない抗菌薬適正使用―．第 53 回 集中治療学会（2026 年、横浜）

3) 葉山達也　保険薬局薬剤師における支持療法の実践的メソッド
がん薬物療法研修会　長崎県薬剤師会　2026 年 1 月 19 日

4) 葉山達也　症例検討：原発不明がん
第 12 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会（日本医療薬学会）　2026 年 2 月 21 日

5) 葉山達也　薬剤師外来が産婦人がん診療に与えるアウトカム.婦人科がん診療を支えるチーム医療の未来(東京)2026 年 2 月 26 日

6) 葉山達也　Cross talk セミナー　みんなで語るがん薬剤師外来を立ち上げて継続している理由～嬉しかったことも苦しかったことも共有します～日本臨床腫瘍薬学会学術集会(福岡)　2026 年 3 月

-2025 年-

1) 葉山達也　座談会：「がん薬剤師外来の立ち上げと、そこでの実践」
医学書院『医学界新聞』2025 年 1 月 11 日

2) 葉山達也　経口抗がん薬の total マネジメント
第 14 回 日本臨床腫瘍薬学会（2025 年 3 月 横浜）

3) 葉山達也　薬剤師外来の再構築による効果と課題
第 14 回 日本臨床腫瘍薬学会（2025 年 3 月 横浜）

4) 葉山達也　がん薬物療法に対する薬剤師の新展開～がん薬剤師外来の再構築～
日本薬学会第 145 年会（2025 年 3 月　福岡）

5) 栃倉尚広　皆で取り組もう！AMR 対策．病院の AMR 対策と抗菌薬適正使用、そして地域との連携
～これからの方向性～．東京都病院薬剤師会．（2025 年 2 月、WEB）

6) 藤條拓　ロジ機能の強化.ロジ機能の強化に向けて薬剤師が果たすべき役割を再考する．
東京 DMAT　次の 20 年に向けた大議論(2025 年、東京）

7) 内池明博　薬学的介入事例の査読と面接の評価．第 14 回 日本臨床腫瘍薬学会学術大会（2025 年 3 月、横浜）

8) 内池明博　症例報告の評価・読み方聞き方．薬学介入と事例報告のための WEB 研修会 2025.（2025 年 3 月、web）

9) 鷲巣晋作　「がん薬剤師外来における診察前面談のコツ」　城北薬薬連携セミナー　2025.3.4

10) 栃倉尚広　シンポジウム 1　臨床薬理学視点による感染症治療薬の適正使用の推進．病院で進める AMR 対策と抗菌薬適正使用のエッセンス．第 12 回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会/第 9 回日本臨床薬理学会関東・甲信越地方会．（2025 年 6 月、東京）

11) 栃倉尚広　シンポジウム 3　今改めて医薬品情報を考える．医療現場を支える医薬品情報業務 ～情報収集、評価、伝達から中毒情報対応まで～．第 27 回日本医薬品情報学会総会・学術大会．（2025 年 7 月、広島）

12) 栃倉尚広　医薬品情報管理業務．第 57 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会 （2025 年 7 月、WEB）

13) 栃倉尚広　C-2 薬物治療評価コース 感染症．第 16 期薬物治療塾．（2025 年 7 月、WEB）

14) 栃倉尚広　C-2 薬物治療評価コース 重症患者．第 16 期薬物治療塾．（2025 年 9 月、WEB）

15) 湯本 一成　医療概論：病院薬剤師について．日本大学看附属看護学校講義．(2025 年 6 月、東京)

16) 間 勝之　前回ワークショップにて各施設で挙がった課題に対しての振り返り、新たな課題の共有．高齢者リンパ腫チーム医療ワークショップフォローアップ会．(2025 年 9 月 WEB)

17) 間 勝之　精神科領域における薬剤師の関わり．埼玉県立大学講義 精神科治療論Ⅰ．(2025 年 7 月 WEB)

18) 坪井伸也　慢性骨髄性白血病に対しニロチニブによる治療中に重度の頭痛が発症した 50 代男性.第 35 回 医療薬学会年会(神戸),2025 年 11 月

19) 矢萩温子　慢性疼痛に対する薬剤師としてのかかわり方. 日本線維筋痛症・慢性痛学会　第 15 回学術集会. (2025 年、東京)

20) 今井徹　救急専門薬剤師によるアウトカム改善の試み：アルコール離脱せん妄に対する処方支援プロトコルの導入第 28 回日本臨床救急医学会総会・学術集会　（2025 年 6 月 横浜）

21) 今井徹　「救急集中治療で輝く薬剤師を目指す-はじめの一歩と実践へのステップ」山口県病院薬剤師会 薬学研究会 第 213 回例会　（2025 年 6 月山口）

22) 今井徹　救急・集中治療の最前線における緩和ケア：薬剤師が担う役割と多職種連携の実践.第 18 回日本在宅薬学会学術大会　（2025 年 7 月 東京）

23) 今井徹　「救急外来の多様な体制と薬剤師業務：最初の一歩と各施設の最適解を求めて」第 1 回日本救急医学会中部地方会薬剤師会研修会　（2025 年 7 月 WEB）

24) 今井徹　『薬剤師よ、もっと前へ! 救急医療の最前線はあなたの居場所』長野救急認定薬剤師懇話会 2025　（2025 年 7 月 WEB）

25) 今井徹　～日大モデルが拓く未来 ～救命の最前線で輝くチーム力.第 21 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会（2025 年 10 月　東京）

26) 今井徹　救急外来における薬剤師業務　“どう始めるか” と “どう続けるか”三重県病院薬剤師会
第 4 回薬物療法部会研修会　（2025 年 10 月 WEB）

27) 今井徹　救急医療で活きる薬剤師の臨床推論～“その瞬間”を見抜く力を鍛える～愛知県病院薬剤師会
第 8 回臨床推論セミナー　（2025 年 12 月　WEB）

28) 今井徹　救急外来で薬剤師は何をすべきか　チーム医療における役割と実務の実際.
第 5 回 千葉県救急集中治療薬物療法研究会（2025 年 12 月　WEB）

29) 今井徹　救急集中治療の原則と全体像：生命維持のサイクルを知る.大阪府病院薬剤師会
2025 年冬季実務セミナー　（ 2025 年 12 月　大阪）

30) 葉山達也　薬剤師外来における課題の抽出と対応事例の共有
がん専門・認定薬剤師外来マネジメント交流会(東京)2025 年 6 月 7 日

31) 葉山達也　高齢者に対する薬剤師外来の位置づけ.がんと認知症診療を考える会(東京)2025 年 7 月 15 日

32) 葉山達也　主体的な薬剤師外来の構築.Pharmacist Web seminar in Tokyo(東京) 2025 年 8 月 29 日

33) 葉山達也　主体的な薬剤師外来にするための戦略的アプローチ.血液がん治療・薬剤師外来セミナー(石川)2025 年 9 月 7 日

34) 葉山達也　薬剤師外来における課題の抽出と対応事例の共有　レンバチニブの標準化と action flow.がん専門・認定薬剤師外来マネジメント交流会(東京)2025 年 11 月 29 日

35) 葉山達也　支持療法　がん専門薬剤師集中教育講座 2025 年 11 月～配信

36) 葉山達也　主体的な薬剤師外来にするための戦略的アプローチ 日本医療薬学会(神戸)ランチョンセミナー2025 年 11 月 23 日

37) 葉山達也　がん治療における薬剤師の役割 テルモ社内研修会　2025 年 12 月 9 日
第 2 回　社会薬局薬学　臨床腫瘍薬剤師講演会 in GIFU　2025 年 12 月 14 日

-2024 年-

1) 葉山達也　病院薬剤師としての 20 年間
日本大学薬学部　講義（2024 年 1 月）

2) 葉山達也　薬剤師外来によるタスクシフトの推進
第 65 回地域連携がん診療セミナー（2024 年 3 月）

3) 葉山達也　がん薬剤師外来により最良のアウトカムを導く
日本薬学会第 144 年会（2024 年 3 月）

4) 葉山達也　がん治療における薬剤師の立ち位置 ～患者アウトカムを最大限に引き出すマインド～
第 17 回日本緩和医療薬学会年会（2024 年 5 月）

5) 松本千明　ファーマシューティカルケアの最前線
日本大学薬学部薬剤師教育センター生涯教育講座（2024 年、Web）

6) 小玉健太郎　救急領域における薬学的管理. プレアボイドフォーラム東京 2024.(2024 年 3 月 WEB)

7) 今井　徹　general と professional な視点を併せて副作用疑いに挑む
日本臨床腫瘍薬学会（2024 年 3 月 神戸）

8) 内池明博　CML-TKI の副作用評価と地域連携体制．医-薬薬連携検討会 ～地域で CML 患者さんを支える連携体制の構築～. (2024 年 11 月、東京)

9) 葉山達也　Treatment transition of malignant lymphoma and the role of pharmacists
Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress 2024 (2024 年 10 月)

10) 葉山達也　支持療法
日本医療薬学会/日本病院薬剤師会　がん専門薬剤師集中教育講座（2024 年 11 月)

11) 栃倉尚広　医薬品情報管理業務．第 56 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会 （2024 年 7 月、WEB）

12) 栃倉尚広．C-2 薬物治療評価コース 感染症．第 15 期薬物治療塾．（2024 年 7 月、WEB）

13) 栃倉尚広．C-2 薬物治療評価コース 重症患者．第 15 期薬物治療塾．（2024 年 8 月、WEB）

14) 栃倉尚広．第 459 回 ICD 講習会．薬剤師主導による antimicrobial stewardship program の活動．
第 28 回日本神経感染症学会総会・学術大会．（2024 年 10 月、東京）

15) 間 勝之　医療概論：病院薬剤師について．日本大学看附属看護学校講義. (2024 年 6 月、東京)

16) 間 勝之　現在の連携状況と問題点 レジメン up date．第 1 回近隣薬局研修会. (2022 年 9 月、Web)

17) 間 勝之　薬剤師外来とがん薬物療法体制充実加算における当院の現状と展望．
第 128 回 私立医大病院薬剤部研究会. (2024 年 11 月、Web)

18) 今井徹　救急集中治療における緩和ケア
第 1 回 日本緩和医療薬学会 関連学会連携委員会 企画シンポジウム （2024 年 3 月）

19) 今井徹　「救急外来における薬剤師業務の進め方」について
第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会（2024 年 7 月）

20) 今井徹　救急医療の質向上に貢献！薬剤師の救急外来への参画と「救急外来における薬剤師業務の進め方」の活用について　第 34 回日本医療薬学会年会（2024 年 11 月)

21) 今井徹　薬剤師が救急集中治療の現場でできること、そしてすべきことは？
第 27 回日本救急医学会中部地方会学術集会 （2024 年 12 月）

22) 今井徹　薬剤師が活かす臨床推論～腎臓と病態を結びつける力をつける～
令和 6 年度病院診療所薬剤師研修会 （2024 年 6 月 9 月）

23) 坂田和佳子　緩和医療における薬薬連携の課題　第 41 回城北緩和医療研究会(2024 年 10 月東京)

24) 坪井伸也　AML の治療における薬剤師の関わり．首都圏これからの薬剤師を考える懇話会 2024（2024 年 7 月）

25) 小林直子　「病気とくすり」　日本大学薬学部講義（2024 年　5 月　千葉）

-2023 年-

1) 栃倉尚広　薬剤師に必要な EBM 実践へのアプローチ．東京都病院薬剤師会 会員実務研究会（2023 年 2 月､WEB）

2) 今井　徹　医療最前線で患者を救うための薬剤師の役割とエビデンスの構築
日本大学大学院薬学研究科大学院特別 講義（2023 年 2 月千葉）

3) 鷲巣晋作　薬剤師が主役になる！ePRO & PRO-CTCAE による有害事象モニタリングを日常診療で活用するために知っておくべきこと．ePRO 活用における Future Perspective ～医療者・患者それぞれのメリット～．
日本臨床腫瘍薬学会（2023 年 3 月 名古屋）

4) 葉山達也．腫瘍センターにおいて薬剤師がいる意味- 血液腫瘍領域における業務展開
第 2 回　悪性リンパ腫マネジメントセミナー（2023 年 6 月仙台)

5) 内池明博．その介入一般的ですか？介入の要約にするにあたって　医療振興財団 web 研修（2023 年 7 月)

6) 山内貴史．基本的な要点と患者の主訴から介入・結果のまとめ方　医療振興財団 web 研修（2023 年 6 月)

7) 栃倉尚広．医薬品情報管理業務．第 55 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会 （2023 年 7 月、WEB）

8) 栃倉尚広．C-2 薬物治療評価コース 感染症．第 14 期薬物治療塾．（2023 年 7 月、WEB）

9) 栃倉尚広．C-2 薬物治療評価コース 重症患者．第 14 期薬物治療塾．（2023 年 8 月、WEB）

10) 坪井伸也．支持療法と臨床薬理　医療振興財団 web 研修（2023 年 8 月)

11) 堤　大輔．APACC として必要な知識・抑えるべき point

細胞障害性薬剤の概論と各論　医療振興財団 web 研修（2023 年 9 月)

12) 間　勝之.　医療概論：薬剤師について.　日本大学看附属看護学校　講義 (2023、 東京)

13) 葉山達也.　基本的な分子標的薬の考え方 医療振興財団 web 研修（2023 年 10 月)

14) 葉山達也.　支持療法
日本医療薬学会/日本病院薬剤師会　がん専門薬剤師集中教育講座（2023 年 11 月)

15) 鷲巣晋作.　APACC として必要な知識・抑えるべき point
免疫チェックポイント阻害薬の概論と各論　医療振興財団 web 研修（2023 年 11 月)

16) 坂田和佳子.小児医療に薬剤師として関わること.日本大学薬学部生涯教育講座.
ファーマシューティカルケアの最前線.(2023 年 11 月)

17) 今井　徹.　救急外来における薬剤師による医薬品情報提供と薬薬連携　近畿薬剤師合同学術大会 2023 年

18) 今井　徹.　重症患者に対する薬物治療の注意点　-救急外来の対応・院内急変に困らないために-
看護薬理学カンファレンス(2023 年,東京)

-2022 年-

1) 葉山達也　がん医療におけるトップランナーからの提言～できる薬剤師になるために、今やるべきこと～
日本臨床腫瘍薬学会学術大会 (2022　3 月　仙台)

2) 間 勝之　精神科領域における薬剤師の関わり. 日本大学薬学部生涯教育講座.　ファーマシューティカルケアの最前線 (2022 年 2 月, web 配信)

3) 今井 徹　医療最前線で患者を救うための薬剤師の役割とエビデンスの構築　日本大学大学院薬学研究科大学院特別講義（2022 年 2 月千葉）

4) 今井 徹　電解質異常に対する補正の実際　第 49 回日本集中治療医学会学術集会(2022 年 3 月仙台)

5) 葉山達也　抗がん薬の副作用について～正しい情報の受け止め方と考え方～
2022 年 WEB がん患者セミナー がん相談支援センター 日本大学医学部附属板橋病院 公開講座

6) 葉山達也　病院―保険調剤薬局間での上手くいく「ヤリトリ」
2022 年度　慶応義塾大学薬学部公開講座
第 2 回慶応義塾大学　薬学がんプロフェッショナル研修会 2022 年 10 月(慶應薬学部)

7) 栃倉尚広　C-2 薬物治療評価コース 感染症. 第 13 期薬物治療塾.（2022 年 7 月、WEB）

8) 栃倉尚広　医薬品情報管理業務. 第 54 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会 （2022 年 7 月、WEB）

9) 栃倉尚広　C-2 薬物治療評価コース 重症患者. 第 13 期薬物治療塾.（2022 年 8 月、WEB）

10) 小林直子　病気とくすり 日本大学薬学部講義. (2022 年、千葉)

11) 今井徹　薬学臨床推論の考え方と実践例　～薬剤師の視点からみえてくること～
令和 4 年度病院診療所薬剤師研修会(2022 年　福岡 広島 名古屋)

12) 間 勝之　薬剤師について.　日本大学看附属看護学校 講義 (2022 年、6 月)

13) 間 勝之　大腸癌治療 - 評価すべき情報と有害事象、そして対策へ - 第 2 回 近隣薬局研修会 (2022 年 8 月)

-2021 年-

1) 葉山達也. 大学病院における臨床研究への苦悩と奮闘. 日本臨床腫瘍薬学会学術集会(Web 幕張)　2021 年 3 月

2) 岸美智子. 薬薬連携　～入退院支援（診療支援センターでの取り組み）～. 東京都病院薬剤師会
「中小病院実務研究会」、(2021 年 1 月 WEB)

3) 今井徹.　組織横断的な感染教育の実施は感染対策のアウトカムの改善に貢献する
–多職種による相互理解とその効果-　第 48 回日本集中治療医学会学術集会（WEB）2021 年 2 月

4) 坪井伸也. 制吐療法のエビデンス.第 56 回地域連携がん診療セミナー.（2021 年 1 月）

5) 葉山達也. 薬剤師によるがん診療連携の推進と課題
第 6 回日本がんサポーティブケア学会学術集会(Web)　2021 年 5 月

6) 中山貴裕. 心不全治療における薬剤師の取り組み. 循環器領域ファーマシューティカルケア研究会. 2021 年 東京

7) 栃倉尚広. 炎症性腸疾患（IBD）領域におけるバイオシミラーの現状と今後～IBD 診療における薬剤師の役割～. 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第 15 回学術大会. （2021 年 6 月、WEB）

8) 栃倉尚広. 脂質異常症の症例に対する SOAP 演習、トレーシングレポート作成演習. 医薬教育倫理協会（AMEE）「薬

剤師の薬物治療への判断力を養う」研修会.（2021 年 7 月、WEB）

9) 栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 感染症. 第 12 期薬物治療塾.（2021 年 7 月、WEB）

10)栃倉尚広. 医薬品情報管理業務. 第 53 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会 （2021 年 7 月、WEB）

11)栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 重症患者. 第 12 期薬物治療塾.（2021 年 9 月、WEB）

12)松本千明. ピロリ菌陽性の特発性血小板減少性紫斑病へのアプローチ, 第 1 回 症例解析から始める実践薬物治療報告会（2021 年 7 月, Web 開催）

13)栃倉尚広. 抗微生物薬の TDM ガイドラインの理解と臨床適応. 薬物治療モニタリング研究会 118 回例会 特別講演会.（2021 年 11 月、WEB）

-2020 年-

1) 葉山達也. 抗がん剤治療の誤解？！聞けそうで聞けない話. 日本大学医学部附属板橋病院がん相談支援センターがん患者セミナー& Cafe 共催：げんきの会 (日本大学板橋病院小児科親の会) (2020 年 1 月)

2) 葉山達也. リツキシマブ インフュージョンリアクション対策の再構築と個別化. 第 46 回城北血液懇話会(2020 年 2 月)

3) 葉山達也. 保険薬局薬剤師による APACC 取得 -より高い専門性を目指して-. 日本臨床腫瘍薬学会学術集会(福岡) 2020 年 3 月

4) 葉山達也. 免疫チェックポイント阻害薬の薬効薬理と副作用マネジメント. 慶応義塾大学薬学部公開講座 第 1 回慶応義塾大学 薬学がんプロフェッショナル研修会 (2020 年 10 月)

5) 葉山達也. 病院薬剤師の業務. 日本大学附属看護学校 2020 年 10 月

6) 栃倉尚広. 高血圧症例の SOAP 演習 トレーシングレポート作成演習. 医薬教育倫理協会(AMEE) これからの薬剤師に必要な標準薬物治療へのアプローチ（2020 年、東京）

7) 栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 感染症. 第 11 期薬物治療塾（2020 年、WEB）

8) 栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 重症患者. 第 11 期薬物治療塾（2020 年、WEB）

9) 鈴木慎一郎. 書けるかな？研究計画書、できるかな？被験者への情報提供. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 50 回学術大会. （2020 年、東京）

10) 今井徹 救命集中治療における薬剤師業務 第 2 回県立病院薬剤師会自主研修会 2020 年 2 月

11) 今井徹 身近にあるカフェイン中毒！！適切なマネージメントは薬剤師の責務 第 30 回日本医療薬学会年会(WEB) 2020 年 11 月

12) 今井徹 救急医療に携わる薬剤師に求められる資質と卒前・卒後教育について 第 30 回日本医療薬学会年会(WEB) 2020 年 11 月

13) 今井徹 症例プレゼンの型を状況で使い分けるモデル事例 日本病院薬剤師会 関東ブロック第 50 回学術大会(WEB) 2020 年 10 月

-2019 年-

1) 関本真雄, 今井徹, 木村高久. 救急・集中治療領域における薬剤師業務. ブレアボイドフォーラム 2019.（2 月, 東京）

2) 坂田和佳子. 学童から AYA 世代の薬物療法における薬剤師の関わり～治療や痛みとつき合いながら家族の時間を持つために～. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019（3 月, 札幌）

3) 今井徹. 救急・集中治療の薬物治療の今を知り、未来に活かす 第 22 回日本臨床救急医学会総会・学術集会（5 月, 和歌山）

4) 内池明博. ケースカンファレンス 支持療法に難渋した複数症例を通してエビデンスの再構築. 第 42 回腫瘍内科カンファレンス（6 月, 東京）

5) 栃倉尚広. 医薬品情報管理業務. 第 51 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会（6 月, 東京）

6) 栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 感染症. 第 10 期薬物治療塾（6 月, 東京）

7) 栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 重症患者管理. 第 10 期薬物治療塾（7 月, 東京）

8) 鈴木慎一郎. 研究計画書の作成と被験者への情報提供. 東京都病院薬剤師会 臨床研究専門薬剤師養成研究会（7 月, 東京）

9) 今井徹, 関本真雄, 鈴木慎一郎, 岩渕聡, 木村高久. 救命救急センターにおける薬剤師２４時間体制におけるプレアボイド解析. 医療薬学フォーラム 2019（7 月, 広島）

10) 今井徹. International Session：日本の集中治療における薬剤師による薬物療法の安全確保への関与. 第 5 回日本医

薬品安全性学会（7 月, 東京）

11) 関本真雄, 今井徹, 木村高久. 循環管理への関わり～輸液・血管作動薬を中心に～. 日本病院薬剤師会関東ブロック第４９回学術大会（8 月, 山梨）

12) 葉山達也. 病院薬剤師の業務. 日本大学附属看護学校 (9 月, 東京)

13) 坂田和佳子. 小児緩和における薬剤師の関わり. 日本医療薬学会第 29 回年会 (11 月, 福岡)

14) 今井徹. 診療支援センターの業務と薬薬連携への展望. 第 51 回東桜会研修会（11 月, 東京）

15) 今井徹. 救命救急センターにおける薬剤師の役割. 日本大学薬学部大学院特別講義.（11 月, 千葉）

16) 今井徹. 救急集中治療における臨床推論の活用 東京都病院薬剤師会会員実務研究会.（11 月, 東京）

17) 今井徹. 急性薬物中毒における薬剤性不整脈！！症例から薬学的アプローチを考える. 第 29 回日本医療薬学会年会（11 月, 福岡）

18) 今井徹, 鈴木慎一郎, 鷲巣晋作, 木村高久. 実臨床を起点としたデータベース解析研究. 第 29 回日本医療薬学会年会（11 月, 福岡）

19) 栃倉尚広. 医薬品情報専門薬剤師による DI リテラシーの教育. 令和元年度第 2 回 JASDI フォーラム (12 月, 東京)

-2018 年-

1) 岩渕聡.「初期診療における医師、薬剤師のコラボレーション」薬剤師の初期治療への介入と効果. 第 68 回日本救急医学会関東地方会 (1 月, 東京)

2) 内池明博. がん化学療法 WG-近隣薬局研修会報告-. 第 15 回　地域医療薬薬連携セミナー(2 月, 東京)

3) 葉山達也. 薬剤師による発熱性好中球減少症のマネジメント-院内院外で共通認識を-.第 2 回がん診療連携拠点病院薬剤師研修会　城北支部(2 月, 東京)

4) 今井徹. 推論×副作用 ケースカンファレンス 輸液療法とバイタルサイン. 東京都病院薬剤師会 臨床推論推進特別委員会 公開講座 (2 月, 東京)

5) 鈴木慎一郎. 褥瘡治療に使われる外用薬の知識. 平成 30 年度 NST 褥瘡対策講習会 (3 月, 東京)

6) 堤大輔. 小児がんに関わる薬剤師の役割～様々な視点から見えてくるもの～ 乳幼児に対する薬剤師の関わり. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018 (3 月, 横浜)

7) 栃倉尚広. 脂質異常症の病態評価と標準薬物治療. 日本アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会 第 14 回科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ (5 月, 東京)

8) 葉山達也. 病院薬剤師の業務. 日本大学附属看護学校 (4 月, 東京)

9) 栃倉尚広. 脂質異常症の病態評価と標準薬物治療. 日本アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会 第 14 回科学的・合理的に薬物治療を実践するためのワークショップ (5 月, 東京)

10) 葉山達也. 当院における制吐療法に対する薬学的介入とアウトカム. 第 6 回私立大学先進医療研究会 (5 月, 東京)

11) 鈴木慎一郎, 今井徹, 吉田善一.日大板橋病院における 救急初療室の薬剤師業務. 第 21 回臨床救急医学会総会･学術集会（5 月, 名古屋）

12) 栃倉尚広. C-2 薬物治療評価コース 感染症. 第 9 期薬物治療塾 (7 月, 東京)

13) 葉山達也. 当院における制吐療法に対する薬学的介入とアウトカム. 第 6 回私立大学先進医療研究会 (5 月, 東京)

14) 鈴木慎一郎. 研究計画書の作成と被験者への情報提供. 東京都病院薬剤師会 臨床研究専門薬剤師養成研究会（7 月, 東京）

15) 今井徹. 薬学臨床推論実践編：臨床で活用し学ぶ実践例. 平成 30 年度病院診療所薬剤師研修会（7 月, 広島, 10 月, 東京, 名古屋, 11 月, 大阪）

16) 鈴木慎一郎. 研究計画書の作成と被験者への情報提供. 東京都病院薬剤師会 臨床研究専門薬剤師養成研究会（7 月, 東京）

17) 今井徹. 中枢神経系疾患：救急認定薬剤師が知るべき事 日本臨床救急医学会. 救急認定薬剤師講習会（9 月東京）

18) 鈴木慎一郎. 集中治療領域で使用される消化器関連薬剤. 平成 30 年度日本大学薬学生涯教育講座（9 月, 東京）

19) 葉山達也. 大学病院薬剤師の現在と 10 年後. 平成 30 年度日本大学薬学部大学院講義 (10 月, 千葉)

20) 葉山達也. 症例サマリのまとめ方 原発不明がん. 第 28 回日本医療薬学会学術大会 (11 月, 神戸)

21) 今井徹. 実践！薬学臨床推論ケースカンファレンス 発熱を伴う意識障害により緊急搬送された 90 歳代女性. 第 28 回日本医療薬学会年会（11 月, 神戸）

22) 今井徹. 臨床薬剤業務におけるクリニカル・クエスチョンから創出するエビデンスの重要性 -救命救急センター専従

薬剤師の観点から-. 第 28 回日本医療薬学会年会（11 月, 神戸）

23）今井徹. 薬による副作用？患者の状態を把握し副作用を推論する薬剤師を目指す. 第 28 回日本医療薬学会年会（11 月, 神戸）

24) 間勝之. 脳卒中急性期の血圧管理 -降圧薬を投与する理由と注意すべき点を知る- 第 48 回 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 （栃木）2018 年 8 月

-2017 年-

1) 栃倉尚広. 感染制御、感染治療と薬剤師 平成 28 年度 明治薬科大学薬「物治療学Ⅳ」特別講義（1 月, 東京)

2) 早坂正敏. 日大板橋病院と近隣 4 区との薬薬連携について～がん医療の均てん化を目指して～ 第 45 回板橋イブニングセミナー（2 月, 東京)

3) 今井徹. 臨床推論ケースカンファレンス～「これって副作用？」をみんなで考えよう～東京都病院薬剤師会 臨床推論推進特別委員会 公開講座（11 月, 東京)

4) 今井徹. 敗血症から学ぶ栄養療法. 第 4 回 JSEPTIC (3 月, 東京)

5) 葉山達也. 支持療法のエビデンスを日常診療へ-実際の介入症例を通して見えてくるもの-.日本大学薬学部大学院講義 (4 月, 千葉)

6) 葉山達也. がん治療における患者との関わり方-非薬学的な介入のエビデンスをもっておく. 平成 29 年度 高度薬学管理機能に関わる勉強会(アインホールディングス) (5 月)

7) 今井徹, 菊池憲和, 篠原高雄, 添田博, 玉造竜郎, 中馬真幸, 西澤健司, 平井理絵, 前田幹広, 峯村純子, 渡邉暁洋. 救急・集中治療における薬剤師業務の質向上に向けて 救急・集中治療の薬剤師の発展を目指した臨床救急医療薬学研究会の取り組み. 第 20 回日本臨床救急医学会総会・学術集会（5 月, 東京)

8）内池明博. がん治療における患者との関わり方. 第 1 回近隣薬局研修会(8 月, 東京)

9) 葉山達也. がん治療における支持療法-エビデンスを日常診療へ-. 平成 29 年度 高度薬学管理機能に関わる勉強会(アインホールディングス) (9 月)

10）内池明博. がん化学療法と検査値 -がん治療における患者との関わり方も踏まえて-. 平成 29 年度日本大学薬学生生涯教育講座「ファーマシュティカルケアの最前線」（10 月, 東京)

11) 葉山達也. 乳がん患者に対する薬学的ケアの実践～経口抗がん薬への取り組みと副作用マネージメント～「症例提示」「症例解説」. 第 1 回慶応義塾大学 薬学がんプロフェッショナル研修会（10 月, 東京)

12) 葉山達也. Infusion reaction 対策の個別化. 第 27 回 日本医療薬学会学術大会（11 月, 千葉)

13) 今井徹. 色々な場面で活用される臨床推論！！はじめの一歩 意思疎通が困難な患者にも積極的に！集中治療室における薬剤師のアクション. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 47 回学術大会（8 月, 前橋)

14) 今井徹. ドラッグリポジショニング研究が切り拓く薬物療法の新展開 システマティックレビューと医薬品副作用データベースを用いたドラッグリポジショニング研究. 第 27 回 日本医療薬学会学術大会（11 月, 千葉)

-2016 年-

1）葉山達也. 外来がん化学療法における支持療法　第 35 回地域連携がん診療セミナー（1 月, 東京）

2）今井徹. 急集中治療における薬剤師業務と薬学的臨床推論　Pharmaceutical Care Forum Mie 第 141 回例会

3）今井徹. 救急集中治療の薬物治療を考える。侵襲が薬物治療に及ぼす影響について　日本薬学会 第 136 年会

3) 栃倉尚広, 中馬真幸, 岩渕聡, 関本真雄, 中山貴裕, 菊池憲和, 吉田善一, 木下浩作. 救急初療室におけるメディカルスタッフのあり方－救命救急センター初療室における薬学的管理－,第66回日本救急医学会関東地方会（2月, 東京）

4）佐々木祐樹. 第 48 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会「医薬品情報管理業務」

5）葉山達也. がん専門薬剤師の患者マネジメント-何が求められて、何をすべきか-, 平成 28 年度日本大学薬学部大学院講義（4 月, 千葉)

6) 坂神　宏. 院内感染対策ー薬剤部の立場からー 日本大学薬学生涯教育講座 ファーマシューティカルケアの最前線（9 月, 東京）

7) 栃倉尚広. 脂質異常症における科学的・合理的な薬物治療を考える 心血管イベントのリスク評価と一次予防, 第 7 回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会（9 月, 京都）

8) 栃倉尚広. 薬物動態情報を正しく理解して感染症の薬物治療とモニタリングを実践する, 薬物治療モニタリング研究会第 60 回特別ゼミナール（9 月, 東京）

9) 葉山達也. 城北エリアにおける外来化学療法に対する広域薬薬連携 -がん治療における板橋・練馬・北・豊島区の現状と今後の課題-, 平成 28 年度東京都病院薬剤師会城北支部勉強会（10 月, 東京)

10) 葉山達也. 支持療法のエビデンスを日常診療へ-実際の癌患者介入症例を通して見えてくるもの-, 平成 28 年度茨城

県南・県西がん専門認定薬剤師セミナー（10 月, 茨城)

11) 葉山達也．広域連携における病院・薬局の役割-城北エリアがん化学療法連携-，平成 28 年度東京都薬剤師 (11 月, 東京)

12) 中馬真幸．呼吸・循環に対する薬学的管理のエッセンス 平成 28 年度昭和大学大学院講義救急医療薬学

13) 中馬真幸．急性腎障害時の薬剤投与量 第 3 回 JSEPTIC 薬剤師部会セミナー

14) 中馬真幸．フィジカルアセスメントを学んで薬物治療に活かす．平成 28 年度関東私大病院薬剤部研究会 中堅薬剤師研修会

15) 中馬真幸．救急・集中治療領域の感染症治療における薬剤師の役割．平成 28 年度日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師講習会

16) 中馬真幸．救急・集中治療領域における薬剤師の役割―実務・臨床研究から国際学会発表・国際誌投稿まで―．平成 28 年度福祉保健局・病院経営本部専門性向上研修　職種職務専門研修

17) 坂田和佳子．専門・認定薬剤師とその役割　小児薬物療法認定薬剤師．第 114 回 私立医科大学 病院薬剤部研究会 (11 月, 東京)

18) 今井徹．冠血管集中治療室 (CCU)のチーム医療における薬剤師の立ち位置！！縁の下の力持ちとして職能を活かす．第 26 回日本医療薬学会年会 (9 月, 京都)

19) 今井徹．推論で学びなおす「副作用」の考え方　－腎領域での活用いろいろ－急性呼吸窮迫症候群に対して保存的な水分管理法を施行中に意識障害を認めた 70 代女性．第 10 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 (11 月, 神奈川)

-2015 年-

1）葉山達也．がん専門薬剤師による能動的介入とアウトカム　平成 27 年度日本大学薬学部大学院講義（4月, 千葉）

2）葉山達也．外来がん化学療法の変遷と薬剤師外来の役割 【シンポジウムテーマ】各施設における外来患者への取り組み 第 111 回関東私立医大病院薬剤部研究会（6月, 東京）

3）今井徹．救急領域における薬学的臨床推論の実践　大阪赤十字病院セミナー

4）今井徹．救急集中治療領域における心房細動症例への薬学的アプローチ　第 25 回 日本医療薬学会年会

5）今井徹．救命救急センターにおける救急医療に対する薬剤師の関与．日本薬学会第 135 年会

6）今井徹．医薬品の安全性評価に薬学的臨床推論をどう活かすか　脊椎損傷で入院中に発熱を繰り返す 60 代女性．第 1 回日本医薬品安全性学会学術集会

7）中山敏光．分子標的薬の有害事象発現状況と薬剤師の関わり．第 59 回日本薬学会関東支部大会

8）中馬真幸．救急集中治療領域における座学と SGD を併用した研究会の満足度評価 ― 臨床救急医療薬学研究会の取り組み － 第 18 回日本臨床救急医学会学術集会 (6 月 4-6 日　富山）

9) 中馬真幸．第 1 回中堅薬剤師研修会報告 関東私立大学病院薬剤部研究会 (6 月 27 日 東京)

10) 中馬真幸．呼吸・循環に対する薬学的管理のエッセンス 平成 27 年度昭和大学大学院講義 救急医療薬学 (8 月 19 日 東京)

11) 中馬真幸．救急領域の Pharmaceutical Care に必要な知識と技能 日本大学薬学生涯教育講座ファーマシューティカルケアの最前線 (10 月 25 日 東京)

12) 中馬真幸．集中治療領域における多職種連携と専門性のクロストーク 第 25 回日本医療薬学会 (11 月 21-23 日横浜)

13) 中馬真幸．循環器救急領域における薬学的管理 ― 求められる知識と技能 － 第 11 回 JOHNAN Pharmacist Heart Conference (3 月 8 日 東京)

14) 栃倉尚広．薬物動態情報を正しく理解して感染症の薬物治療とモニタリングを実践する，薬物治療モニタリング研究会　第 58 回特別ゼミナール，(10 月 東京）

15）佐々木祐樹．第 47 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会「医薬品情報管理業務」

-2014 年-

1）葉山達也．城北 4 区における薬薬連携の現状と課題．練馬オンコロジーカンファレンス

2) 葉山達也．日本大学医学部附属板橋病院を中心とした広域城北エリアにおける病診薬連携の現状と課題．日本臨床腫瘍薬学会　学術大会 2015

3）中馬真幸．敗血症に対する抗菌薬投与戦略．第 35 回臨床救急医療薬学研究会

4）中馬真幸．フィジカルアセスメントを学んで薬物治療に活かす．平成 26 年度関東私大病薬薬剤部研究会　中堅薬剤師研修会

5）中馬真幸．敗血症に対する薬物治療を考える．第 36 回臨床救急医療薬学研究会

6）菊池憲和．救急医療で業務する認定薬剤師の立場から－現状と将来像について－，第 17 回日本臨床救急医学会総会・学術集会

7）佐々木祐樹．第 46 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会「医薬品情報管理業務」

8）中馬真幸．明日からの病棟薬剤業務に役立つ急性期管理のエッセンス　－病態と生体機能に基づく薬物治療－．平成 26 年　大分県病院薬剤師会 1 月例会

9）中馬真幸．救急・集中治療における薬学的管理　－求められる知識と技能－．Pharmaceutical Care Forum Mie　第 132 回例会

10）中馬真幸．救急・集中治療における薬学的管理　－求められる知識と技能－．第 61 回北海道薬学大会

11）栃倉尚広．院内感染制御チーム（ICT）の薬剤師の役割．平成 26 年度　明薬出身者次世代ネットワークの集い

12）栃倉尚広．薬剤師が薬物治療に積極的にかかわるうえでの TDM の役割～感染症の TDM と症例解析～．薬物治療モニタリング研究会　第 56 回特別ゼミナール

13）栃倉尚広．チーム医療の実践～救命救急センターにおける 24 時間体制の薬学的管理～．第 110 回 関東私立医科大学病院薬剤部研究会

14）今井徹．致死的不整脈の薬物治療を考える．第 34 回臨床救急医療薬学研究会

15）岩渕聡．日本大学医学部附属板橋病院における災害時の取り組みと今後の展望．第 109 回 関東私立医科大学病院薬剤部研究会

-2013 年-

1）中山敏光．がん患者に対して薬剤師がしなければならないこと～現場の薬剤師から～，日本大学薬学部（2013 年 12 月 19 日,千葉)

2）佐々木祐樹.第 45 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会「医薬品情報管理業務」

3）葉山達也．薬学的介入の実際と症例サマリ-非ホジキンリンパ腫．第 1 回　がん専門薬剤師全体会議

4）葉山達也．当院における抗 EGFR 製剤による皮膚障害対策の目的と運用．皮膚障害セミナー

5）葉山達也．症例サマリの書き方-非ホジキンリンパ腫瘍．第 23 回　日本医療薬学会　学術大会

6）葉山達也．エビデンスに基づいた支持療法の実戦．平成 25 年度　薬学生涯教育講座

7）中馬真幸．呼吸・循環の安定化に必要な基礎知識．第 30 回　臨床救急医療薬学研究会

8）中馬真幸．呼吸・循環に対する薬学的管理．平成 25 年度　救急認定薬剤師講習会

9）中馬真幸．熱傷患者に対する薬剤師の役割．第 21 回日本熱傷学会関東地方会

10）中馬真幸．　救急・集中治療領域において必要な臨床知識．第 23 回日本医療薬学会年会

11）今井徹．「高度侵襲患者に対する至適薬剤投与法を目指して」高度侵襲患者に対する TDM による最適な薬物投与設計．第 16 回日本臨床救急医学会総会・学術集会

12）今井徹．これからの病棟薬剤師業務　～患者のために，臨床推論でできること～突然発症の意識障害により緊急搬送された 72 歳女性．第 23 回日本医療薬学会年会

13）堤大輔．がん治療に対する保険薬局の現状分析と今後の方向性．平成 25 年度かかりつけ薬局研修会

-2012 年-

1）早坂正敏．「がん化学療法と薬学的管理」外来がん化学療法における業務と保険薬局との情報共有について，日本大学薬学部生涯教育

2）中山敏光．外来化学療法における治療薬とその業務について，日本大学薬学部

3）中山敏光．悪性腫瘍に対する抗腫瘍薬の選択とその使用について,日本大学薬学部

4）佐々木祐樹．第 44 回 病院・診療所薬剤師新任教育研修会「医薬品情報管理業務」

5）葉山達也．外来化学療法における薬薬連携の必要性．第 6 回　北東京がんフォーラム

6）中馬真幸．救急領域における薬剤師業務　－循環器用薬のモニタリングを中心に－．第 28 回　臨床救急医療薬学研究会

7）中馬真幸．救急医療・集中治療における薬剤師の役割．平成 24 年度　国際医療福祉大学救急薬学講義(11 月 26 日 ,栃

木)

8）中馬真幸. (パネルディスカッション)専門薬剤師の能力を生かす！　－症例への考え方と専門間リレーション－. 医療薬学フォーラム 2012(7 月 14-15 日,福岡)

9）中馬真幸. (シンポジウム) 心肺脳蘇生に対する薬学的管理. 第 21 回日本医療薬学会年会(10 月 27-28 日,新潟)

10）中馬真幸. (シンポジウム) Heart　Team における薬剤師の役割　-救命救急センターにおける活動を中心に-. 第 26 回日本冠疾患学会学術集会(12 月 14-15 日,東京)

11）今井徹. 救急認定薬剤師による救急医療への貢献―求められる知識と可能性 救急集中医療における急性期の薬学的管理. 第 15 回日本臨床救急医学会総会・学術集会(6 月 16 日, 熊本)

12）今井徹. 呼吸・循環管理に対する薬学的介入のポイント. 第 29 回臨床救急医療薬学研究会(11 月 26 日, 東京)

-2011 年-

1）葉山達也. がん薬物治療における情報共有化を目指して. 第 2 回　地域医療薬薬連携セミナー (5 月,東京)

2）中馬真幸. (シンポジウム)救急認定薬剤師への期待　～救急医療に携わる薬剤師の立場から～. 第 14 回日本臨床救急医学会総会(6 月 2 日-4 日,北海道)

3）今井徹. 救急・集中領域における薬剤師の役割と育成　救命救急センターでの学生実習と今後の課題. 医療薬学フォーラム 2011　第 19 回クリニカルファーマシーシンポジウム (7 月 9 日, 北海道)

4）今井徹. 薬剤師の新たな医療への貢献 救命救急医療における応用薬理学と薬剤師の貢献.　第 13 回応用薬理シンポジウム(9 月 3 日, 千葉)

2. 海外学会発表

-2025 年-

1) Kei Saito, Tatsuya Hayama, Yusuke Mitsuka, Hayato Abe, Nao Yoshida, Ryota Masuzaki, Naoki Matsumoto, Osamu Aramaki, Yukiyasu Okamura, Hirofumi Kogure, Katsuhiro Miura.Risk factors for immune-related adverse events associated with PD-1/PD-L1 inhibitors in hepatobiliary cancers
ESMO Asia　Date Fri, Dec 5, 2025

-2021 年-

1) Daisuke Tsutsumi, Tatsuya Hayama, Katsuhiro Miura, Akihiro Uchiike, Shinya Tsuboi, Isamu Odagiri, Takashi Yamauchi, Susumu Ootsuka, Yoshihiro Hatta and Yukinaga Kishikawa.A Novel Protocol of RituximabAdministration for Reducing SevereInfusion-Related Adverse Reactions inPatients with B-Cell Non-HodgkinLymphoma.63rd ASH Annual Meeting and Exposition (Atlanta, GA),2021.12

-2015 年-

1）Masayuki Chuma, Makoto Makishima, Toru Imai, Naohiro Tochikura, Takako Sakaue, Norikazu Kikuchi, Kosaku Kinoshita, Morio Kaburagi, Yoshikazu Yoshida, SIRS duration influences serum concentrations of vancomycin in sepsis 14th Interntional Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinial Toxicology 11-15 October 2015 Rotterdam, The Netherlands

2) Takashi Kawaguchi, Kanako Azuma, Hiroshi Soeda, Toru Imai, Masaru Iwai, Sosuke Kogure , Kanayuki Kitahara, Shinsuke Ogue, Hiroaki Usui, Ryo Takahashi, Naoki Kishida, Yoshiyuki Shibata, Yasuharu Tokuda, Naho Minagawa, Takao Akashi. The development of a ‘pharmaceutical’ clinical reasoning workshop for hospital pharmacists.　75th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2015.Düsseldorf, Germany • 29 September - 3 October 2015

3. 国内学会発表

-2026 年-

1) 北川小百合、青山隆彦、佐藤萌果、山田知奈、栃倉尚広、澤村順哉、目黒翔太郎、岡橋彩、長野伸彦、森岡一朗、辻泰弘．早産児無呼吸発作患児を対象としたカフェインの母集団薬物動態解析．日本薬学会第 146 年会（大阪）、2026 年 3 月

2) 安藤優希、間勝之、内池明博、長木弓子、栗城翔、葉山達也、坪井伸也、鷲巣晋作、谷口樹、大川早霧、羽鳥恵子、佐久間葵、福島栄、岡村行泰、三浦勝浩.アブレピタントがイリノテカンに及ぼす影響についての探索的研究 ．第 15 回日本臨床腫瘍薬学会(福岡) 2026 年 3 月

3) 佐久間葵、鷲巣晋作、葉山達也、内池明博、坪井伸也、谷口樹、大川早霧、羽鳥恵子、間勝之、長木弓子、栗城翔、安藤優希、大熊勇気、川名敬、福島栄、三浦勝浩 ． 婦人科固形腫瘍における ACA index の有用性の検討． 第 15 回日本臨床腫瘍薬学会 学術大会 2026(福岡), 2026 年 3 月

-2025 年-

1) 齋藤圭、葉山達也、小林公子、北原麻衣、大木庸子、野村舟三、藤澤真理子、阿部勇人、三塚祐介、五十嵐雅仁、吉田直、奥村康弘、堳崎亮太、松本直樹、成宮孝祐、荒牧修、三浦勝浩、岡村行泰、木暮宏史．
消化器癌における免疫介在性有害事象の発生頻度とリスク因子．第 33 回日本消化器関連学会週間．JAPAN DIGESTIVE DISEASE WEEK 2025.10(神戸)

2) 佐藤萌果、青山隆彦、栃倉尚広、目黒翔太郎、澤村順哉、岡橋彩、大塚進、長野伸彦、森岡一朗、辻泰弘．新生児無呼吸症発作患者における力フェインおよびその代謝物の血中濃度比と成熟度の関係．日本薬学会第 145 年会（福岡）、2025 年 3 月

3) 高橋真実子、中野あずさ、藤原祐輔、梅田富子、森沙緒理、藤條拓、鈴木慎一郎、栃倉尚広、堀内有紀子、亀山久美子、秋本高義、北野尚孝、上原秀一郎．口底癌術後の舌運動制限による摂食嚥下障害に対して言語聴覚士および NST の介入により経口摂取を獲得した 1 例．第 40 回日本栄養治療学会学術集会（横浜）、2025 年 2 月

4) 細川透,前田自然,石塚慧,井口梅文,桑名司,櫻井淳,山口順子,今井徹,木下浩作.ペランパネル注射剤のてんかん重積状態に対する有効性についての検討.第 75 回 日本救急医学会関東地方会学術集会(東京).2025 年 2 月

5) 佐藤 萌果、青山 隆彦、栃倉 尚広、目黒 翔太郎、澤村 順哉、岡橋 彩、大塚 進、長野 伸彦、森岡 一朗、辻 泰弘,新生児無呼吸症発作患者における力フェインおよびその代謝物の血中濃度比と成熟度の関係,日本薬学会第 145 年会（福岡）,2025 年 3 月」

6) 澤村 順哉、栃倉 尚宏、目黒 翔太郎、北川 小百合、青山 隆彦、岡橋 彩、長野 信彦、大塚 進、森岡 一郎、辻 泰弘,新生児無呼吸発作患者における力フェイン血中濃度を用いた臨床効果の予測に関する探索的観察研究 ,医療薬学フォーラム 2025（旭川）,2025 年 6 月」

7) 藤條 拓, 今井 徹, 岩渕 聡, 澤村 順哉, 桑名 司, 山口 順子, 櫻井 淳, 木下 浩作, 大塚 進. 都市型災害における薬剤師が担うロジスティクスの有用性の評価． 第 28 回日本臨床救急医学会総会・学術集会.2025.6 月

8) 天野太智、浦野翔、湯澤舞香、庄司遥香、麻生洋哉、今井徹、大塚進、関口佳純、大場延浩．スタチンの使用と認知症の発生に関する後ろ向きコホート研究．第 35 回日本医療薬学会年会（神戸）．2025 年 11 月

9) 麻生洋哉、森沙緒理、藤條拓、鈴木慎一郎、栃倉尚広、梅田富子、堀内有紀子、亀山久美子、高橋真実子、秋本高義、上原秀一郎.長期中心静脈栄養管理によるセレン欠乏症を生じ､亜セレン酸ナトリウム注射液投与により改善した 1 例．第 26 回 MeT3・NST 研究会 ．（2025 年 11 月、WEB）

10) 秋本高義、梅田富子、堀内有紀子、亀山久美子、麻生洋哉、森沙緒理、藤條拓、高橋真実子、上原秀一郎．中心静脈栄養開始後に重症低血糖を生じた肝硬変の 1 例．第 26 回 MeT3・NST 研究会．（2025 年 11 月、WEB）

11) 小玉 健太郎、今井 徹、桑名 司、大塚 進、木下 浩作．血中濃度が低値であったレベチラセタム誘発性横紋筋融解症の 2 例．第 35 回 日本医療薬学会 (神戸), 2025 年 11 月

12) 間 勝之, 栃倉 尚広, 大塚 進．メラトニンがバンコマイシン関連腎毒性に対して予防効果をもたらす可能性について FAERS を用いた解析．合同大会, 第 12 回日本アプライド・セラピューティック学会学術大会, 第 9 回日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会 (埼玉), 2025 年 6 月

13) 南雲成、堀井剛史、齋藤雅俊、明石岩雄、大河貴子、奥野靖隆、西郷織江、 堤大輔、林太祐、古屋順一、百賢二、安武夫、関礼輔、城田幹生、 後藤一美. 薬学部生と病院薬剤師がともに考える病院薬剤師のキャリアプラン（第 2 報）.

第 35 回日本医療薬学会年会(神戸). 2025 年 11 月

14) 金澤剛二、郷古 康愛、中原衣里菜、田村 豪良、伊東 正剛、石風呂 素子、藤田 智子、坂田 和佳子、松井 美貴、横瀬 宏美、下澤 克宜. 脳腫瘍の患児を拒絶していた姉に対し、きょうだい支援にて関係修復に成功した症例.第 30 回日本緩和医療学会学術大会（福岡）2025 年 7 月

15) 郷古 康愛、金澤 剛二、中原 衣里菜、田村 豪良、伊東 正剛、石風呂 素子、藤田 智子、坂田 和佳子、松井 美貴、横瀬 宏美、下澤 克宜.こどもを亡くした遺族に対しグリーフ & ビリーブメントケアの介入が可能であった 4 例. 第 30 回日本緩和医療学会学術大会（福岡）2025 年 7 月

16) 齋藤圭、葉山達也、小林公子、藤澤真理子、阿部勇人、三塚祐介、五十嵐雅仁、吉田直、奥村康弘、増崎亮太、松本直樹、成宮孝祐、荒牧修、岡村行泰、木暮宏史、三浦勝浩. 消化器癌に対する PD-1 または PD-L1 阻害薬の免疫介在性有害事象リスク因子. 第 63 回　日本癌治療学会学術集会　2025 年 10 月 16-18 日　横浜

17) 三浦勝浩、内池明博、坪井伸也、鷲巣晋作、間勝之、葉山達也. 日大板橋病院腫瘍センターにおける薬剤師によるプロトコルに基づく薬物治療管理（PBPM）の実際.第 29 回板橋区医師会医学会　2025 年 11 月

-2024 年-

1) 鷲巣　晋作、葉山　達也、内池　明博、坪井　伸也、長木　弓子、宮城　愛、矢萩　温子、三浦　勝浩、大塚　進.慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害薬の副作用重症度が分子遺伝学的奏効に与える影響.第 13 回　日本臨床腫瘍薬学会　学術大会　2024 年 (神戸)　3 月

2) 鈴川 真由、鈴木 訓史、葉山 達也、藤田 行代志、谷川 大夢、小澤 有輝、末廣 直哉、鷲巣 晋作、雨笠 愛美、新井隆広、鈴木 洋平、井澤 美苗、望月 眞弓、清宮 啓介、石川 春樹、青森 達、大谷 壽一ダラツムマブ皮下注時の Infusion-Related Reaction に対する抗ヒスタミン薬の有効性・安全性に関する多施設共同観察研究.第 13 回　日本臨床腫瘍薬学会　学術大会　2024 年 (神戸)　3 月

3) 内池明博，鷲巣晋作，間勝之，坪井伸也，大川早霧，谷口樹，葉山達也，大塚進
当院におけるトレーシングレポート(がん領域)の有用性に関する実態調査.第 27 回 日本地域薬局薬学会年会　2024 年 7 月(千葉)

4) 森沙緒理、藤條拓、鈴木慎一郎、栃倉尚広、大塚進、梅田富子、堀内有紀子、亀山久美子、髙橋真実子、秋本高義、高山忠輝、上原秀一郎. 薬剤師の早期介入によりリフィーディング症候群の発症を予防し得た低カリウム血症の 1 例. 第 25 回 MeT3・NST 研究会、(2024 年 11 月、WEB)

5) 間 勝之、葉山達也、内池明博、坪井伸也、鷲巣晋作、長木弓子、栗城 翔、安藤優希、大塚 進. がん化学療法におけるタスクシフトの推進. 第 28 回 板橋区医師会医学会 (東京), 2024 年 12 月

6) 中山敏光、一色晶美、渡邊真由美、榎本有希子、藤田英樹. CRC チームに薬剤師が参画する意義. 第 24 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2024 in SAPPORO（札幌) 2024 年 9 月

7) 前田自然　細川透　石塚慧　井口梅文　桑名司　櫻井淳　山口順子　今井徹　木下浩作　てんかん重積状態に対するペランパネル注射剤の有効性についての検討　日本蘇生学会第 43 回大会 2024 年 12 月

8) 金澤 剛二、郷古 康愛 、上村 譲 、中原 衣里菜 、田村 豪良 、伊東 正剛 、石風呂 素子 、藤田 智子、坂田 和佳子、松井 美貴、横瀬 宏美、井口 多恵子、中山 彩織、大川 聖子、小畑 正孝、森尚子、下澤 克宜. 患児の特性や大家族という特殊な家庭環境での小児がん緩和ケアの実践. 第 29 回日本緩和医療学会学術大会(神戸), 2024 年 6 月

9) 郷古 康愛、金澤 剛二、上村 譲、田村 豪良、伊東 正剛、石風呂 素子、塚原 美保、藤田 智子、坂田 和佳子、松井美貴、横瀬 宏美、下澤 克宜.
ACP(advance care planning)の実践により児の希望に寄り添えた終末期小児がん患者を経験して. 第 29 回日本緩和医療学会学術大会(神戸), 2024 年 6 月

10) 堀井剛史、大河貴子、奥野靖隆、西郷織江、齋藤雅俊、堤大輔、南雲成、林太祐、古屋順一、百賢二、安武夫、関礼輔、城田幹生、後藤一美.薬学部生と病院薬剤師がともに考える病院薬剤師のキャリアプラン.日本病院薬剤師会関東ブロック第 54 回学術大会(埼玉), 2024 年 8 月

-2023 年-

1) 鈴木 美香奈、浅見 覚、中山 敏光、徳田 栄一、加納 久雄、加藤 孝一、山中 健三、鈴木 孝、ヒト白血病細胞株に対するビタミン K3 チオエーテル誘導体のアポトーシス誘導効果の解析、日本薬学会第 143 年会（札幌)、2023 年 3 月

2) 立石裕樹，今井 徹，川邊一寛，玉造竜郎，安藝敬生，今中翔一，奥川寛，中馬真幸，前田幹広　ICU における注射薬の希釈濃度統一の必要性に関するアンケート調査　第 50 回日本集中治療医学会学術集会(京都）2023 年 3 月

3) 元吉今日子，内池明博，鶴﨑大，今井徹，大塚進，荒川基記，日髙慎二. 人工股関節全置換術施行患者における静脈血栓塞栓症治療薬エドキサバンの安全性に関する研究. 第 26 回 日本地域薬局薬学会年会 (東京), 2023 年 7 月

4) 松本千明,岩渕聡,栃倉尚広,今井徹,福島栄,大塚進,西山宏幸,梅村啓史,中山智祥.　固形腫瘍患者における発熱性好中球減少症管理のための抗菌薬のデ・エスカレーション: レトロスペクティブ研究　第 33 回日本医療薬学会総会(仙台), 2023 年 11 月

5) 鈴木 慎一郎, 今井 徹, 大塚 進. 医薬品副作用データベース(JADER)を用いた低酸素誘導因子-プロリン水酸化酵素(HIF-PH)阻害薬の甲状腺機能低下症に関する解析. 第 32 回日本医療薬学会年会(仙台), 2023 年 11 月

6) 鷲巣　晋作、葉山　達也、内池　明博、坪井　伸也、長木　弓子、宮城　愛、矢萩　温子、入山　則良、三浦　勝浩、大塚　進. BFI (Brief Fatigue Inventory) および CFS (Cancer Fatigue Scale) による慢性骨髄性白血病患者の倦怠感評価. 第 33 回　日本医療薬学会(仙台)、2023 年 11 月

7) 坂田和佳子、周布多英子、齊藤みちよ、上原秀一郎、高山忠輝、大塚進.患者支援センターにおける入院前からの薬剤師の関わり.第 27 回板橋区医師会医学会(東京).2023 年 12 月

-2022 年-

1) Daisuke Tsutsumi, Tatsuya Hayama, Katsuhiro Miura, Akihiro Uchiike, Shinya Tsuboi, Isamu Odagiri, Takashi Yamauchi, Susumu Otsuka, Yoshihiro Hatta, Yukinaga Kishikawa.　Novel rituximab administration protocol to minimize infusion-related adverse reactions in patients with B-cell lymphoma.
第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (京都),2022 年 2 月

2) 河野 遼, 内池 明博、葉山 達也、堤 大輔、坪井 伸也、三浦 勝浩、八田善弘
Olanzapine for secondary prevention for chemotherapy-induced nausea andvomiting: a respective real-world study.第 19 回　日本臨床腫瘍学会　学術大会　2022 年 (京都) 2 月

3) 菅野淳史、栃倉尚広、大場延浩、大塚進．医薬品副作用データーベース（JADER）を用いた薬剤惹起性うつ病に関するシグナル検出．日本薬学会第 142 年会（名古屋），2022 年 3 月

4) 鈴木 美香奈、浅見 覚、中山 敏光、下田 康代、加藤 孝一、山中 健三、松本 高広、西澤 健司、鈴木 孝.ヒト白血病細胞株におけるビタミン K3 チオエーテル誘導体のアポトーシ ス効果.日本薬学会第 142 年会.2022 年 3 月

5) 藤條拓、鈴木慎一郎、栃倉尚広、大塚進、堀内有紀子、亀山久美子、梅田富子、高橋真実子、北野尚孝、上原秀一郎 、亜鉛製剤と経口栄養剤の併用により銅欠乏性貧血をきたした膿疱性乾癬の一例
第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、2022 年 6 月 1 日

6) 鳥居　綾子、東　加奈子、平手　大輔、臼井　浩明、河原　陽介、金　素安、葉山　達也、輪湖　哲也、平田　大氣、吉村　昭修、益子　友恵、川口　崇、山口　拓洋．免疫チェックポイント阻害剤を投与しているがん患者における ePRO を用いた免疫関連有害事象に関するレジストリ研究（RESPECT 試験）（Trial in progress）．第 7 回日本がんサポーティブケア学会学術集会(下関)　2022 年 6 月

7) 安藤　寛子、野口　美幸、渡邉　理基、熊野　光翼、大信　紀明、葉山　達也、堀越　建一
ヒドロモルフォン注射剤への切り替え換算量についての検討.第 32 回　日本医療薬学会(群馬)、2022 年 9 月

8) 小玉健太郎、今井徹、淺井康夫、神津悠、林健太郎、清水哲夫、權寧博、大塚進．　COVID-19 に対するナファモスタットメシル酸塩の投与による高カリウム血症の発現状況とリスク因子解析．　第 32 回 日本医療薬学会（群馬), 2022 年 9 月

9) 坂田和佳子　加藤実　大塚進.薬剤師介入により患児の注射恐怖軽減から主体的な治療参加につながった 1 症例.日本ペインクリニック学会第 56 回学術大会(東京)，2022 年 7 月

10) 向後奈未、中山敏光、古千晶、福井光、笠原麻未、佐藤昴香、川合真知子、渡邊真由美、榎本有希子、 藤田英樹.治験の症例登録促進に向けた取り組み、第 22 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議　(横浜)、2022 年 9 月

11) 立石裕樹, 今井 徹, 川邊一寛, 玉造竜郎, 安藝敬生, 今中翔一, 奥川寛, 中馬真幸, 前田幹久　集中治療室における注射薬の使用濃度統一に関する実態調査　第 31 回日本医療薬学会年会(高崎）2022 年 9 月

-2021 年-

1) Shinya.Tsuboi, Tatsuya Hayama, Katsuhiro Miura, Takashi Yamauchi, Senami Ueno, Mei Tamura, Takeshi Fujishiro, Yoshihiro Hatta, Masami Takei, Keiichirou Tada, Satoru Takahashi, Susumu Ootsuka. Risk factors of pegfilgrastim-induced bone pain. 第 18 回　日本臨床腫瘍学会　学術大会　2021 年 (京都) 2 月

2) 関口佳純、鈴木奈緒、瀬野遥、福島栄、栃倉尚広、大塚進、福岡憲泰、大場延浩. フィブラート間の高血圧発生について：レセプトデータを用いた解析. 第 31 回 日本医療薬学会 (熊本), 2021 年 10 月

3) 中山晋作、内池明博、栃倉尚広、葉山達也、大塚進、医薬品副作用データベース(JADER)を用いた Bevacizumab 先発 / BS の副作用発現の比較、日本ジェネリック医薬品･バイオシミラー学会第 15 回学術大会 2021.6 月

4) 佐藤昴香、鈴木ゆかり、向後奈未、中山敏光、渡邊真由美、榎本有希子、加藤公敏. 適正な治験プロセス管理に向けた電子カルテの活用. 第 21 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 in 横浜. 2021 年 10 月

5) 中山敏光、川合真知子、向後奈未、吉村幸子、渡邊真由美、榎本有希子、加藤公敏.新型コロナウイルスがもたらした治験環境の変化における医療機関側の取組み.第 21 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 in 横浜. 2021 年 10 月

6) 川邊一寛、大場延浩，中山敏光，福岡憲泰，坂本靖宜，後藤洋仁，鈴木太一，小池博文，佐橋幸子.イマチニブに関する使用実態調査とアドヒアランス.第 31 回日本医療薬学会年会. 2021 年 10 月

7) 鈴木奈緒、瀬野遥、関口佳純、中山敏光、福岡憲泰、大場延浩.フィブラートの使用と高血圧発生との関連：レセプトデータを用いた後ろ向きコホート研究.第 31 回日本医療薬学会年会. 2021 年 10 月

8) 間 勝之, 今井 徹, 鈴木 慎一郎, 大塚 進. レバミピドが NSAIDs 起因性下部消化管傷害に対し予防効果をもたらす可能性について－ FAERS と JADER 2 つのデータベースを用いた解析－. 第 31 回 日本医療薬学会 (Web 開催), 2021 10 月

-2020 年-

1) 栃倉尚広，鈴木慎一郎，，藤條拓，大塚進，木村高久，林宏行．救急・集中治療領域における薬剤師の栄養療法の報告に関する調査・研究．第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会（2 月，京都）

2) 松本千明、栃倉尚広、岩渕聡、坂神宏、大塚進、大場延浩、木村高久，薬剤師による手指衛生に関する研究についての記述的調査，日本病院薬剤師会関東ブロック第 50 回学術大会(Web 開催)，2020 年 10 月

3) 藤條拓、栃倉尚広 、堤大輔 、木村高久、大塚進、松本直樹 、神田達郎 、森山光彦．直接作用型抗ウイルス薬療法における薬剤師の介入の有用性に関する検討.日本病院薬剤師会関東ブロック第 50 回学術大.2020 年 10 月

4) 中山貴裕，中馬真幸，栃倉尚広，岩渕聡，鈴木慎一郎，松本千明，今井徹，濱田 高志，中川優，高橋宏通，内野慶人，三浦勝浩，入山規良，八田善弘，武井正美，木村高久．発熱性好中球減少症に対するアルベカシンクリアランスの影響.第 30 回日本医療薬学会年会（名古屋）. 2020 年 11 月

5) 武内温子、上島健太郎、坂田和佳子、高橋努、大塚進、荒井梓、加藤実.トラマドールおよびタペンタドールのがん性疼痛，骨転移痛，神経障害性疼痛に対する効果に関する研究.日本病院薬剤師会関東ブロック第 50 回学術大会（Web 開催）.2020 年 10 月

6) 間勝之、加藤茉子、今井徹、中山敏光、中村公薫、渡邉文之、大塚進、木村高久.FAERS による NSAIDs 起因性下部消化管障害 に対する Rebamipide の予防効果に関する研究.第 50 回 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（Web）2020 年 10 月

7) 小田桐功武、高木香菜子、鷲巣晋作、細谷幸紀、内池明博、坪井伸也、葉山達也、權寧博、林宏行、木村高久. EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺がんにおける EGFR-TKI の効果および毒性に対する体表面積の影響．第 30 回 日本医療薬学会 (名古屋), 2020 年 11 月

8) 菅野淳史、栃倉尚広、髙橋努、大塚進、大場延浩、木村高久． 新型コロナウイルス感染症に関する薬学実習生の医薬品情報 リテラシー教育の取り組みと評価． 日本病院薬剤師会関東ブロック第 50 回学術大会（東京）, 2020 年 10 月

9) 藤條　拓　カフェイン中毒に関する文献レビュー 第 34 回日本中毒学会東日本地方会（2020 年 2 月 8 日）

-2019 年-

1) 椎田成美，坪井伸也，葉山達也，上野瀬奈美，関本明子，藤代健，木村高久，櫻井健一. タキサン系抗がん剤の累積投与量と CIPN 発現時期に関する研究．日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019（3 月，北海道）

2) 上島健太郎，坂田和佳子，早坂正敏，渡邉文之，大塚進，木村高久，亀井美和子．緩和医療における薬薬連携に向けた研修会が患者の治療効果に与える影響．日本薬学会第 139 回年会（3 月，千葉）

3) 栃倉尚広，鈴木慎一郎，本田茉代，大塚進，木村高久，林宏行．NDB オープンデータを用いた EN 処方の実態調査．第 11 回日本静脈経腸栄養学会首都圏支部会学術集会（5 月，横浜）

4) 坂田和佳子，上島健太郎，葉山達也，大塚進，平井麻衣子，加藤実，木村高久．小児及び成人患者における終末期のオピオイド投与量に関する検討．日本病院薬剤師会関東ブロック第 49 回学術集会（8 月，甲府）

5) 世戸克尚，梶原一絵，前田剛，今井徹，八田善弘，鈴木孝浩．自己血輸血によるアナフィラキシーが疑われた一症例．日本麻酔科学会　関東甲信越・東京支部第５８回合同学術集会（9 月，東京）

6) 池野星奈，今井徹，鈴木慎一郎，岩渕聡，堤大輔，木村高久，中山敏光，渡邉文之．重症敗血症および敗血症性ショックに対する経腸栄養療法の有効性に関するシステマティックレビュー．第 29 回日本医療薬学会年会（11 月，福岡）

7) 麻生 洋哉、大場 延浩、依馬 理咲子、荒井 希文、佐々木 祐樹、福島 栄、福岡 憲泰、菊池 憲和．降圧剤の使用による尿酸値への影響：病院の医療情報データを用いた解析．第 29 回 日本医療薬学会(福岡), 2019 年 11 月

-2018 年-

1）松本千明，中馬真幸，加藤真帆人，小玉健太郎，坂神宏，栃倉尚広，大塚進，平山篤志，吉田善一．心不全多職種参加型カンファランスにおける薬剤師の取り組み．第 82 回日本循環器学会学術集会（3 月，大阪）

2）内池明博，上野瀬奈美，飯塚俊介，藤代健，東風貢，葉山達也，早坂正敏，吉田善一．体表面積の相違による制吐効果の検討．第 7 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会（3 月，横浜）

3）堤大輔，蒲谷有望，葉山達也，仲尾岳大，川名敬，早坂正敏，吉田善一．婦人科腫瘍に対する TC 療法による過敏症の因子解析．第 7 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会（3 月，横浜）

4）大塚進，中馬真幸，岩渕聡，原田大，鈴木善樹，山口順子，雅楽川聡，吉田善一，工藤賢三，岸野亨，西澤健司．薬剤師の職能を最大限に活かしたフィジカルアセスメント研修会の実施とその評価．日本薬学会第 138 年会（3 月，金沢）

5）飯塚俊介，葉山達也，蒲谷有望，堤大輔，大塚英希，早坂正敏，櫻井健一，吉田善一．乳癌術前・術後補助化学療法に対する相対用量強度の影響に関する研究．第 10 回日本がん薬剤学会学術大会（5 月，東京）

6）中山敏光，堤大輔，安部恵，渡邉文之，林宏行．医薬品副作用データベース(JADER)を用いた ALK 阻害薬の有害事象発現状況の検討．日本社会薬学会第 37 年会（8 月，千葉）

7）中山敏光，堤大輔，安部恵，渡邉文之，林宏行．医薬品副作用データベース(JADER)を用いた EGFR-TKI の有害事象発現状況の検討．第 28 回日本医療薬学会年会（11 月，兵庫）

-2017 年-

1）織田美紀，山口順子，小松智英，雅楽川聡，木下浩作，亀山久美子，芳野 緑，鈴木慎一郎，栃倉尚広．成人腸管不全合併肝障害に対して Cyclic TPN など保存加療を試みたが奏功せず死亡した一例．第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会（2 月，岡山）

2）福井めい，今井徹，鈴木慎一郎，鷲巣晋作，堤大輔，間勝之，藤條拓，中原久美子，大塚進，早坂正敏，木村高久，吉田善一．医薬品副作用データベース（JADER）を用いた NSAIDs 起因性下部消化管傷害に対するレバミピドの予防効果・有効性の検討．日本薬学会第 137 年会（3 月，仙台）

3）中原 久美子，今井徹，鈴木慎一郎，鷲巣晋作，堤大輔，福井めい，間勝之，西村桃子，大塚進，早坂正敏，木村高久，吉田善一． 副作用報告データベース（JADER）を用いたジスチグミンによるコリン作動性症候群に対する行政施策に基づく添付文書の用量変更の効果に関する検討．日本薬学会第 137 年会（3 月，仙台）

4）大塚進，木村高久，吉田善一．酸化マグネシウム錠製剤の硬度に関する研究．日本薬学会第 137 年会（3 月，仙台）

5）佐藤志帆，今井徹，田中敏，座間味義人，名倉弘哲．電気的除細動抵抗性心室細動／無脈性心室頻拍に対するニフェカラントの有効性評価メタ解析～アミオダロンとの効果比較～．日本薬学会第 137 年会（3 月，仙台）

6）鷲巣晋作，葉山達也，坪井伸也，内池明博，山本裕子，小田桐功武，上野瀬奈美，三浦勝浩，早坂正敏，櫻井健一，武井正美，吉田善一．Peg-filgrastim 投与時期の相違が FN (febrile neutropenia) 発症に与える影響の検討．第 6 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会（3 月，新潟）

7）中馬真幸，桑名司，澤田奈実，小松智英，木下浩作．ICU におけるバンコマイシン塩酸塩 15mg/L 以上の初回血中トラフ濃度は腎機能障害に関連する 第 44 回日本集中治療医学会（3 月 9-11 日 札幌）

8）鈴木 慎一郎，中馬 真幸，平林 茉莉奈，山口 順子，木下 浩作．熱傷患者に対する抗菌薬の至適投与法の検討．第 43 回日本熱傷学会総会・学術集会（5 月，東京）

9）小田桐功武，早坂正敏，上島健太郎，加藤実，釈文雄，穐山真由美，佐々木祐樹，坂田和佳子，関本明子，吉田善一，亀井美和子．がん患者における Acetaminophen の PK simulation の疼痛に対する適応への研究．第 11 回日本緩和医療薬学会年会（6 月，札幌）

10）羽賀知絵美，今井徹，鈴木慎一郎，堤大輔，間勝之，中原久美子，西村桃子，福井めい，鷲巣晋作，大塚進，早坂正敏，木村高久，吉田善一．JADER を用いたリトドリンの重篤な副作用発現時期の解析．医療薬学フォーラム 2017 第 25 回クリニカルファーマシーシンポジウム（7 月，鹿児島）

11）関本明子，徳橋泰明．日本大学医学部附属板橋病院の医療安全管理室における専従薬剤師の取り組み．第 12 回医療の質・安全学会学術集会（11 月，幕張）

-2016 年-

1）小田桐功武，中馬真幸，堤大輔，関本真雄，吉田善一，小林寿美子． 同種造血幹細胞移植患者におけるバンコマイシン塩酸塩の血中濃度に影響を与える因子の検討 第 38 回日本造血細胞移植学会総会 (3 月 3-5 日 名古屋)

2）飯塚俊介，葉山達也，内池明博，堤大輔，小田桐功武，中山敏光，早坂正敏，吉田善一． EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における gefitinib の治療効果に対する制酸剤併用の影響 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2016 (3 月 12-13 日 鹿児島)

3）中山敏光，新井麻矢，浅見覚，鳥山正晴，三浦基文，栗田雅弘，川久保孝，吉田善一，本橋重康，鈴木孝.神経芽腫に対する各ビタミン K 誘導体における分化 誘導効果の検索.（3 月，横浜）

4）小菅康弘，今井徹，石毛久美子，伊藤芳久．S-allyl-L-cystein 誘導体の小胞体ストレス誘発細胞死に対する神経保護効果　第 89 回日本薬理学会年会　(3 月 9-11 日　横浜)

5）加藤実，金野倫子，曽我部智子，佐藤今子，西村明子，上島健太郎　痛みセンターの介入を契機に胃切除術後の腹痛原因の特定と痛みの消失が得られた一症例（2016.2.6　第 30 回東京・南関東疼痛懇話会）

6）山口順子，織田美紀，小松智英，雅楽川聡，木下浩作，亀山久美子，芳野緑，栃倉尚広．高カロリー輸液用総合ビタミン剤投与によりワルファリン抵抗性を生じた 1 例．第 31 回日本静脈経腸栄養学会学術集会（2 月 25-26 日，福岡）

7）松本千明，遠藤智宇，山内貴史，岩渕 聡，栃倉尚広，中馬真幸，大塚 進，木村高久，吉田善一．感染制御薬剤師と病棟薬剤師の連携による抗菌薬の適正使用の取り組みに対する報告 日本病院薬剤師会関東ブロック第 46 回学術大会（8 月 27-28 日，千葉）

8）間 勝之，今井 徹，鈴木慎一郎，中田智子，堤 大輔，福井めい，西村桃子，中原久美子，早坂正敏，吉田善一．医薬品副作用データベース (JADER)を用いた薬剤性せん妄に関する医薬品のシグナル検出．日本病院薬剤師会関東ブロック第 46 回学術大会 (8 月 27-28 日，千葉)

9）鈴木慎一郎，今井 徹，中馬真幸，山口順子，桑名 司，澤田奈実，吉田善一，木下浩作．ICU 患者における早期有効血中濃度を目指した TEIC 至適投与法の報告．第 26 回日本医療薬学会年会 (9 月 17-19 日，京都)

10）今井徹，川口崇，東加奈子，岩井大，臼井浩明，小久江伸介，北原加奈之，小暮宗介，添田博，平井浩二，高橋良，岸田直樹，柴田喜幸，徳田安春，源川奈穂，明石貴雄．薬学的臨床推論研修プログラム構築の取り組み(第 2 報)～研修内容のブラッシュアップ！2014 年度と 2015 年度を比較して～．第 26 回日本医療薬学会年会 (9 月 17-19 日，京都)

11）関本明子，加藤実．痛みセンターにおける多職種による患者情報聴取に関する評価～テキストマイニングの手法を用いた職種別・患者別の聴取内容分析～ 第 50 回日本ペインクリニック学会 (7 月 7～9 日，横浜)

-2015 年-

1）西村明子，今井徹，鈴木慎一郎，早坂正敏 ,吉田善一，加藤実．　痛みセンターにおける多職種による患者情報聴取のテキストマイニングの手法を用いた分析 第 25 回日本医療薬学会年会 (11 月 21-23 日　横浜)

2）坪井伸也，葉山達也，内池明博，小林直子，堤大輔，山本裕子，早坂正敏，吉田善一．外来化学療法室における薬学的介入の評価．第 25 回日本医療薬学会年会 (11 月 21-23 日　横浜)

3）Akihiro Uchiike, Tatsuya Hayama, Katsuhiro Miura, Daisuke Tsutsumi, Masatoshi Hayasaka, Yoshihiro Hatta, Masami Takei, Yoshikazu Yoshida. A clinical prediction model for infusion reaction to rituximab. 第 13 回　日本臨床腫瘍学会学術大会（7 月 札幌)

4）座間味義人，今井徹，小山敏広，武本あかね，北村佳久，千堂年昭．救急医療における薬剤師業務に関する日本と諸外国との比較 -よりよい救急薬剤 師の確立を目指して 日本薬学会第 135 年会 (3 月 25-28 日 神戸)

5）今井徹，岩渕聡，堤大輔，山内貴史，飯塚俊介，中馬真幸，菊池憲和，木下浩作，吉田善一．急性薬物中毒患者の病院前トリアージのための重症度スコアの作成とその評価第 18 回日本臨床救急医学会学術集会 (6 月 4-6 日　富山)

6）蛭川康子,中山敏光,今井徹,村上正人．大学病院勤務薬剤師のストレス要因やストレス反応と職務満足度の関連性 第 56 回日本心身医学会総会・学術講演会 (6 月 26-27 日 東京)

7）入口慎史，今井徹，折井孝男．メタアナリシスを用いた発熱性好中球減少患者に対する経験的抗真菌薬治療における抗真菌スペクトルによる有効性の比較　第 25 回日本医療薬学会年会 (11 月 21-23 日　横浜)

8）川口崇，東加奈子，今井徹，岩井大，臼井浩明，小久江伸介，北原加奈之，小暮宗介，添田博，平井浩二，高橋良，岸田直樹，柴田喜幸，徳田安春，源川奈穂，明石貴雄．　薬学的臨床推論研修への取り組み 第 25 回日本医療薬学会年会 (11 月 21-23 日　横浜)

-2014 年-

1）座間味義人，今井徹，小山敏広，武本あかね，北村佳久，千堂年昭．救急医療における薬剤師業務に関する日本と諸外国との比較 -よりよい救急薬剤師の確立を目指して．日本薬学会第 135 年会(3 月 25-28 日，神戸)

2）坂神宏，栃倉尚広，佐々木祐樹，岩渕聡，菊池憲和，吉田善一．救命救急センターにおいて汎用される注射薬の「配合変化確認シート」の活用と評価，第 5 回 日本アプライド・セラピューティクス学会（8 月,神戸）

3）栃倉尚広，佐々木祐樹，中馬真幸，今井徹，坂神宏，菊池憲和，吉田善一，桑名司，守谷俊，木下浩作，丹正勝久．救命救急センターにおける腎機能別抗菌薬投与量携帯用ガイドの活用と評価．第 17 回日本臨床救急医学会総会・学術集会 (5 月 31 日-6 月 1 日,栃木)

4）高橋雅弘，佐々木祐樹，堀川恵太,小川竜一,越前宏俊．日本人血漿濃度データを用いたゲンタマイシン 1 日 1 回投与法における母集団薬物動態解析．第 31 回日本 TDM 学会・学術大会（5 月 31-6 月 1 日，東京)

5）菊池憲和，栃倉尚広，矢内充，矢越美智子，小林広和，伊藤美和子．多職種連携による「抗 MRSA 薬適正使用カンファレンス」は適正使用率を向上させ MRSA 検出率を減少させた．第 29 回日本環境感染学会総会・学術集会（2 月,東京）

6）入口慎史, 今井徹, 田沼道也, 吉田善一, 折井孝男. 全身性炎症反応症候群（SIRS）がバンコマイシンの薬物動態へ与える影響についての検討. 第 31 回日本 TDM 学会・学術大会（5 月 31-6 月 1 日, 東京）

7）座間味義人, 今井徹, 武本あかね, 名倉弘哲, 氏家良人. 薬物療法の実践に重点を置いた薬学生向けの救命実技実習の開発. 第 17 回日本臨床救急医学会学術（5 月 31-6 月 1 日, 栃木）

8）座間味義人, 相良英憲, 今井徹 , 原直己, 小山敏広, 武本あかね, 北村佳久, 千堂年昭, 名倉弘哲. 救急外来における初療への薬学的介入を志向した薬学生向け救命実技演習の開発. 第 24 回日本医療薬学会年会（9 月 27-28 日,名古屋）

9）西村明子, 安藤寛子, 上島健太郎, 早坂正敏, 吉田善一. オキシコドン塩酸塩水和徐放剤導入時における悪心・嘔吐　の発現にアセトアミノフェンが与える影響の検討. 第 8 回日本緩和医療薬学会年会（10 月,愛媛）

10）坪井伸也, 中馬真幸, 福島栄, 早坂正敏, 木村高久, 菊池憲和, 吉田善一. 薬剤師常駐病棟における疑義照会内容の分析と評価. 第 12 回日本臨床医学リスクマネジメント学会（5 月, 東京）

11）鈴木慎一郎, 今井徹, 福島栄, 早坂正敏, 木村高久, 菊池憲和, 吉田善一. 電子カルテ導入前後における内服・外用調剤疑義照会内容の検討. 第 12 回日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会（5 月,東京）

12）岩渕聡, 葉山達也, 内池明博, 堤大輔, 早坂正敏, 吉田善一. 尿蛋白(2＋) 発現後の bevacizumab 継続が与える影響の検討. 日本臨床腫瘍薬学会　学術大会（3 月 ,千葉）

-2013 年-

1）岸美智子, 葉山達也, 上島健太郎, 西村明子, 堤大輔, 木村高久, 吉田善一. CDTM（collaborative drug therapy management）による外来化学療法の適正化における評価, 第 11 回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会（４月,昭和大学）

2）田畑恵市, 中山敏光, 浅見覚, 内山武人, 三浦基文, 鳥山正晴, 本橋重康, 秋久俊博, 鈴木孝. 天然物由来化合物に基づく新規神経芽腫治療薬のシーズ探索. 日本薬学会第 133 年会（3 月 27 日,横浜）

3）平田菜穂, 中山敏光, 栃倉尚広, 坂神宏, 木村高久, 吉田善一, 麦島秀雄. 全病棟を対象とした抗がん薬レジメン管理のリスクマネジメント評価, 第 11 回日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会（3 月,大宮）

4）堤大輔, 今井徹, 中馬真幸, 阪上貴子, 菊池憲和, 鏑木盛雄, 吉田善一. 急性薬物中毒の重症度に関与する臨床的因子の解析. 第 16 回日本臨床救急医学会学術集会（7 月 12-13 日,東京）

5）弘中智子, 今井徹, 内池明博, 中馬真幸, 阪上貴子, 菊池憲和, 鏑木盛雄, 吉田善一. 炎症反応がフェニトインの血中濃度に及ぼす影響. 第 16 回日本臨床救急医学会学術集会（7 月 12-13 日,東京）

6）中馬真幸, 阪上貴子, 栃倉尚広, 今井徹, 菊池憲和, 鏑木盛雄, 吉田善一, 守谷 俊, 木下浩作, 丹正勝久. Sepsis 患者におけるバンコマイシン塩酸塩の血中濃度変動に及ぼす臨床的因子の検討. 第 16 回日本臨床救急医学会学術集会（7 月 12-13 日,東京）

7）阪上貴子, 中馬真幸, 今井徹, 栃倉尚広, 北野徹, 菊池憲和, 鏑木盛雄, 吉田善一. 救命救急センターにおけるバンコマイシン塩酸塩の TDM の評価. 第 16 回日本臨床救急医学会学術集会（7 月 12-13 日,東京）

8）栃倉尚広, 佐々木祐樹, 阪上貴子, 坂神宏, 菊池憲和, 鏑木盛雄, 吉田善一, 守谷　俊, 木下浩作, 丹正勝久. こども救命センターにおける小児救急薬剤シートの活用. 第 23 回 日本医療薬学会年会（9 月,仙台）

9）坂田和佳子, 鈴木雅惠, 安藤寛子, 三輪典子, 竹澤真由美, 西村明子, 海老原毅, 會田一惠, 栗崎滋, 佐野雅昭, 池田友紀, 伊藤美幸, 早坂正敏, 吉田善一. 薬薬連携における緩和領域勉強会の有用性. 第 43 回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（8 月,新潟）

10）今井徹, 小菅康弘, 梅田香織, 石毛久美子, 槇島誠, 伊藤芳久. S-allyl-L-cysteine の小胞体ストレス誘発神経細胞死抑制効果には calpain 阻害作用が関与する. 第 133 回日本薬学会年会（3 月 27-29 日, 横浜）

11）座間味義人, 今井徹, 小山敏広, 武本あかね, 北村佳久, 名倉弘哲, 千堂年昭. 薬物療法の実践を目指した薬学生向けの救命実技演習の実施. 第 16 回日本注射薬臨床情報学会（8 月 31 日, 兵庫）

12)今井徹, 小菅康弘, 石毛久美子, 伊藤芳久. 成熟ニンニク由来成分 S-allyl-L-cysteine は calpain の活性化を阻害する. 第 15 回応用薬理シンポジウム（9 月 28-29 日, 東京）

13）堤大輔, 葉山達也, 上島健太郎, 早坂正敏, 吉田善一. 進行・再発乳癌における eribulin が及ぼす効果および毒性に対する相対用量強度的検討. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2013（3 月 16-17 日, 千葉）

14）鈴木孝, 本橋重康, 内山武人, 鳥山正晴, 浅見覚, 田畑恵市, 三浦基文, 中山敏光. 神経芽腫に対する分化誘導効果に特化した新規治療薬の開発. 日本薬学会第 134 年会（3 月 30 日,熊本）

-2012 年-

1）北野徹, 田畑恵市, 養田裕行, 鈴木孝. 神経芽腫細胞に対する vitamin K3 誘導体における選択的腫瘍細胞傷害効果の検討, 第 71 回日本癌学会（9 月 19 日,札幌）

2）佐々木祐樹，木村高久，吉田善一．抗菌薬の後発医薬品導入による経済的効果と適正使用への影響.第 6 回日本ジェネリック医薬品学会学術大会（6 月，東京）

3）吉木悠子，大谷萌，友光成仁，鬼倉和世，小沼芽生，葉山達也，早坂正敏，吉田善一．外来化学療法における地域薬・薬連携の取り組み．第 132 回日本薬学会（3 月,札幌）

4）安藤寛子，上島健太郎，葉山達也，早坂正敏，吉田善一．鎮痛補助薬と併用する睡眠薬が相互の継続性に与える影響．第 17 回日本緩和医療学会学術総会（6 月,神戸）

5）葉山達也，早坂正敏，小沼芽生，中山敏光，天野定雄，吉田善一．Docetaxel 希釈濃度による過敏症発現率の相違に及ぼす検討．第 50 回日本癌治療学会（10 月,横浜）

6）藤井聖子，葉山達也，上島健太郎，小沼芽生，堤大輔，大谷萌，友光成仁，早坂正敏，吉田善一．外来化学療法における薬薬連携の一環とした情報共有化ツールの作成および運用．第 22 回日本医療薬学会（10 月,新潟）

7）菊池憲和，今井徹，中馬真幸，小林広和，伊藤美和子，下口和雄，矢越美智子，矢内充．当院における抗 MRSA 薬適正使用への取り組み～「抗 MRSA 薬適正使用に関する会議」開催の効果～．第 23 回日本臨床微生物学会総会（1 月 21-22 日,神奈川)

8）今井徹，中馬真幸，阪上貴子，北野徹，菊池憲和，鏑木盛雄，吉田善一，木下浩作，丹正勝久．救命救急センターにおける急性薬物中毒症例の検討．第 27 回日本救命医療学会総会・学術集会（9 月 13-14 日,東京)

9）中馬真幸，今井徹，阪上貴子，北野徹，菊池憲和，鏑木盛雄，吉田善一，木下浩作， 丹正勝久．CHDF 管理中の熱傷患者に対し，ゲンタマイシンの透析液濃度を考慮した TDM によりコントロールを行った 1 症例．第 27 回日本救命医療学会総会・学術集会（9 月 13-14 日,東京)

10）阪上貴子，中馬真幸，今井徹，菊池憲和，鏑木盛雄，吉田善一，木下浩作， 丹正勝久．救命救急センターにおけるバンコマイシン塩酸塩の Therapeutic Drug Monitoring の評価．第 27 回日本救命医療学会総会・学術集会（9 月 13-14 日,東京)

11）中馬真幸，今井徹，阪上貴子，菊池憲和，吉田善一，木下浩作，丹正勝久．乱用薬物検出における 2 種類の尿中薬物検査デバイス(トライエージ DOA と Monitect-9)の比較．第 21 回日本医療薬学会年会（10 月 27-28 日,新潟)

12）栃倉尚広，永井萌子，時任裕子，鏑木盛雄，山舘周恒，稲毛康司．当院での広域抗菌薬適正使用への取り組み～カルバペネム系薬と耐性緑膿菌を中心に～．第 27 回日本環境感染学会総会（年 2 月,福岡）

13）入口慎史，今井徹，石橋正祥，村山暢子，折井孝男．抗 MRSA 薬補助薬における敗血症・肺炎に対する有効性に関する文献学的考察．日本医療マネジメント学会第 12 回東京支部学術集会（2 月 25 日，東京)

14）入口慎史，今井徹，折井孝男．敗血症・肺炎に対する抗 MRSA 薬に使用する補助剤の有効性に関する文献学的考察．第 22 回日本医療薬学会年会（10 月 27-28 日，新潟)

15）今井徹，磯部幸，伊藤陽子，菊池憲和，斎藤清一，佐治崇，比留間康二郎，吉木悠子，石垣栄一，吉田善一．薬薬連携による薬学教育の取り組み「災害時に薬剤師としてなにができるか」ワークショップ報告．第 22 回日本医療薬学会年会（10 月 27-28 日， 新潟)

16）今井徹，小菅康弘，石毛久美子，伊藤芳久．S-Allyl-L-cysteine の小胞体ストレス誘発細胞死抑制機構．第 23 回日本大学薬学部学術講演会（11 月 10 日，船橋)

-2011 年-

1）安藤寛子，葉山達也，上島健太郎，西村明子，小沼芽生，飯沼亜季，早坂正敏，吉田善一．プレガバリンによる副作用発現に関与する因子の探索．第 5 回日本緩和医療薬学会学術総会（9 月,幕張)

2）葉山達也，早坂正敏，吉田善一．CDDP レジメン継続に対する Mg の臨床的位置づけ –第二報-．第 13 回応用薬理シンポジウム（9 月,船橋)

3）Hayama T, Tabata K, Uchiyama T, Suzuki T. Ferrearin C, a constituent of Licaria puchury-major, induces apoptosis via heme oxygenase-1 in neuroblastoma．第 70 回日本癌学会学術総会（10 月,名古屋)

4）小沼芽生，葉山達也，磯部幸，中山敏光，早坂正敏，吉田善一，丹正勝久．抗 EGFR 抗体による皮膚障害の発現状況とその対策時期に関する検討．第 49 回日本癌治療学会学術総会（10 月,名古屋)

5）今井徹，藏内恭子，中馬真幸，磯部幸，菊池憲和，吉田善一，丹正勝久．救命救急センターにおける参加型救命救急実習の学習効果とその評価．第 131 回日本薬学会（ハイライト選出）(3 月 29 日-31 日,静岡)

6）中馬真幸，今井徹，佐々木祐樹，菊池憲和，吉田善一．小児造血器腫瘍領域における発熱性好中球減少症患者に対するセフタジジム水和物の PK-PD 理論に基づく投与法の検討．第 59 回日本化学療法学会総会（6 月 23 日-25 日,北海道)

7）石田恵莉，内池明博，今井徹，中馬真幸，中田順子，菊池憲和，吉田善一．バンコマシン塩酸塩における腎機能障害発症に関与する臨床的因子の検討-第 2 報-．第 13 回応用薬理シンポジウム（9 月 3 日-4 日,千葉）

8）入口慎史，今井徹，中馬真幸，内池明博，中田順子，菊池憲和，吉田善一．テイコプラニンの血中濃度に影響する臨床

的因子の検討. 第 13 回応用薬理シンポジウム（9 月 3 日-4 日,千葉)

9）今井徹，中馬真幸，高際貴子，磯部幸，菊池憲和，吉田善一，丹正勝久. 救命救急センターにおける参加型救命救急実習の有用性に関する検討　–事前事後の学生アンケート結果より-. 第 21 回日本医療薬学会年会（10 月 1 日-2 日,神戸)

10）中馬真幸，今井徹，高際貴子，吉田善一，丹正勝久. 救命救急センターにおける薬剤管理指導業務 24 時間体制の構築と評価. 第 21 回日本医療薬学会年会（10 月 1 日-2 日,神戸)

11）中田順子，中馬真幸，今井徹，吉田善一，丹正勝久. 発熱性好中球減少患者に対するアミノグリコシド系抗菌薬の PK/PD 理論に基づく投与方法の検討. 第 21 回日本医療薬学会年会（10 月 1 日-2 日,神戸)

12）中馬真幸，梅田(遠藤)香織，山田幸子，榛葉繁紀，槇島誠. Hairless によるリガンド選択的 VDR 活性の抑制作用. 第 22 回日本レチノイド研究会学術集会（11 月 11-12 日,東京)

13）栃倉尚広，佐澤瑞穂，鏑木盛雄，間崎武郎. グラム陰性桿菌菌血症の予後因子と抗菌薬治療 における Time above MIC の臨床的考察. 第 59 回日本化学療法学会総会（6 月,北海道）

14）杉浦知子，栃倉尚広，鏑木盛雄，間遠成一，間崎武郎. 一般外科領域における完全皮下埋め込み式カテーテルの感染に関わる因子の検討. 第 59 回日本化学療法学会総会（6 月,北海道）

15）小菅康弘，谷口耶絵子，宮岸 寛子，長田暢宏，今井徹，石毛久美子，伊藤芳久. 海馬切片培養系における小胞体ストレス誘発細胞死に対する Mithramycin の神経保護効果について. 第 84 回日本薬理学会年会（3 月 22-24 日，横浜)

16）小菅康弘，谷口耶絵子，宮岸寛子，今井徹，石毛久美子，伊藤 芳久. 抗腫瘍性抗生物質 Mithramycin の神経保護効果について. 第 3 1 回日本歯科薬物療法学会（6 月 24 日-26 日，千葉）

17）堤大輔，山崎研，工藤なをみ，川嶋洋一. GK ラットにおける高脂肪高スクロース食摂食の影響. 日本薬学会第 131 年会（3 月，静岡)

4. 受賞歴

1）葉山達也.
平成 25 年度 優秀論文賞 (日本医療薬学会)
「Docetaxel 希釈濃度による過敏症発現率の相違に及ぼす検討」.(2011　3 年 9 月，仙台)

2）葉山達也.
平成 25 年度 最優秀症例サマリ賞 (日本医療薬学会がん専門薬剤師認定制度委員会). (2013 年 5 月，東京)

3）今井徹.
第 15 回応用薬理シンポジウム　優秀賞. (2013 年 9 月，東京)

4）堤大輔.
日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2013 初級者優秀賞「進行・再発乳癌における eribulin が及ぼす効果および毒性に対する相対用量強度的検討」(2013 年 3 月，東京)

5）岩渕聡.
日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2014 初級者優秀賞「尿蛋白(2＋) 発現後の bevacizumab 継続が与える影響の検討」.
(2014 年 3 月，千葉)

6）中馬真幸.
平成 27 年日本化学療法学会海外派遣奨学費

7）葉山達也.
平成 30 年度 優秀症例サマリ賞（日本医療薬学会がん専門薬剤師認定制度委員会） (2018 年 1 月，東京)

8）今井徹.
東京都病院薬剤師会　功労賞（2024 年 5 月　東京）

専門（認定）薬剤師の声

がん専門薬剤師

葉山（はやま）　達也（たつや）

【取得資格】
- 日本医療薬学会　がん指導薬剤師
- 日本医療薬学会　がん専門薬剤師
- 日本医療薬学会　医療薬学指導薬剤師
- 日本医療薬学会　医療薬学専門薬剤師

がん治療におけるチーム医療の中で薬剤師は存在意義を見出し，薬学的領域でイニシアチブをもつことが重要です。薬剤師は抗がん剤の投与量を減量させるのは得意ですが，一方で不用意な減量に根拠をもって「待った」をかけることができますか？患者さんが予後について相談したいと訴えたら 1 人の薬剤師としてきちんと向き合えますか？

複合的な状況下で薬剤師として判断し責任をもって能動的に介入することが専門薬剤師には求められます。当院では前述したコンセプトが主幹である業務・運用として「外来化学療法室」「がん薬剤師外来」「PBPM (Protocol Based Pharmacotherapy Management)」を実施しています。皆さんの色々な取り組みや考えが最終的に患者さんへ還元される「がん治療」をテーマとして一緒に日大 team oncology を築き上げていきましょう！

感染制御専門薬剤師

栃倉　尚広

【取得資格】
- 日本医療薬学会　医療薬学指導薬剤師
- 日本医療薬学会　医療薬学専門薬剤師
- 日本臨床救急医学会　救急認定薬剤師
- 日本臨床栄養代謝学会　栄養サポートチーム専門療法士・臨床栄養代謝専門療法士
- 医薬品情報学会　医薬品情報専門薬剤師
- 日本病院薬剤師会　感染制御専門薬剤師
- 日本化学療法学会　抗菌化学療法認定薬剤師

近年，感染症診療に対する関心が医療現場では高まっています。多少の誤解を恐れずにいえば，診断および治療の両方の過程に関わることが医師とすれば，薬剤師は「すでに診断のついた，あるいはつきつつある病態について適切な治療を施す」という形で診療に関わっていくことができると思います。そのためにも感染症診療の原則として，1.感染部位・臓器，2.原因微生物の固有名詞，3.感染症治療薬の選択，4.感染症の趨勢判断・治療効果の判定が大切になってきます。なぜなら，患者さんの病態に応じて抗菌薬を適切に選択できないと死亡率や入院期間が増加します。PK-PD 理論（時間依存性，濃度依存性）や TDM は薬剤師が最も得意とする分野のひとつではないでしょうか。また，狙った病原体にだけ効く薬を使う（de-escalation therapy）も MRSA などの耐性菌抑制の点からは大切です。感染症はどの診療科においても役立つツールとなるので，ぜひとも一緒に勉強していきましょう。

日本医療薬学会 指導薬剤師

今井　徹

【取得資格】
- 日本医療薬学会　医療薬学指導薬剤師
- 日本医療薬学会　医療薬学専門薬剤師
- 日本臨床救急医学会　救急専門薬剤師

研究と聞くと大学の研究室や製薬会社を思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし，今ある医療をさらに良い医療にするためには臨床現場での研究も必要です。教科書に記載されている治療が今後もスタンダードであるとは限りません。10 年後に現在の標準治療が，実は生命予後の向上に寄与していなかったということは多くあります。薬剤師は基礎薬学，臨床薬学の教育を受けており知識も豊富です。明日の薬物治療の進歩には薬剤師の関与は重要です。当院薬剤部はがん，感染，緩和等の分野で専門薬剤師が多く在籍しており，臨床業務とともに，明日の医療の発展に寄与すべく研究を行いエビデンスの発信を行っています。

薬物療法専門薬剤師

小玉　健太郎

【取得資格】
- 日本医療薬学会　薬物療法専門薬剤師
- 日本臨床救急医学会　救急認定薬剤師

私は薬物治療のジェネラリストとして患者さんの薬物治療を包括的に支えたいという想いで臨床に参加しています。大学病院である当院は臨床・研究・教育のすべてに関わることができる環境が整っています。臨床では多職種連携や多くの診療科と関わることができるため幅広い領域の知識が必要となる機会が多く、日々やりがいを感じています。研究では臨床でのクリニカルクエスチョンからデータ収集・解析、論文投稿までの過程を支援してもらえます。研究・論文投稿と聞くと大変なイメージを浮かべる方も多いかもしれませんが、医師とのディスカッションを深めるためには日々の学術活動が非常に重要になってくると考えています。また、サポート体制も整っており、薬剤師として成長し続けたい方にとって、最適な環境が整っています。薬剤師としての幅広いスキルを身につけたい方は是非当院でキャリアをスタートさせ、私たちとともに薬剤師の新しい可能性を広げていきませんか？

NST

鈴木　慎一郎

【取得資格】

・日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師
・日本医療薬学会	医療薬学専門薬剤師
	医療薬学指導薬剤師
・日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム専門療法士

入院患者の３～７割が栄養不良といわれています。栄養の改善が病気を治すわけではありませんが，栄養不良が治療に悪影響を及ぼし，入院期間の延長を来してしまいます。NST（栄養サポートチーム）では各職種が栄養に関する基礎知識を持った上で，各々の視点から患者の栄養状態の改善を目指していきます。「栄養について薬剤師が関わる」というと実感がわかないかもしれませんが，薬剤のなかには吐き気など食欲不振を引き起こすものもありますし，経管栄養の一部や輸液等，経口摂取不十分な患者の栄養は薬剤が担っていることから考えても副作用対策や処方設計等，薬剤師の専門性が活かせる場が多くあります。栄養を学ぶことで通常の薬学的管理の幅が拡がります。

救急認定薬剤師

岩渕　聡

【取得資格】

・日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師
・日本救急医学会	ICLS インストラクター
・日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師

救急医療・集中治療領域では素早い判断と対応ができるチーム医療を求められるので、薬物療法の知識はもちろん，病態や生理学などの総合的知識や論理的思考力が必要となります。そうした基盤がないと，刻一刻と変わる重症患者さんの状態把握ができず，適切な薬物療法の提案や評価ができないからです。EBM の適応に迷い、教科書的経過を辿らない事例も多いですが，薬剤師としての「総合力」が試され，また発揮できる分野であると認識しています。

薬物療法の発展に寄与するエビデンスを世の中へ発信することも重要な役目です。発展途上の分野であるからこそ，従事する認定薬剤師の責任も大きく，日常業務と共に研究活動に励んでいます。

緩和薬物療法認定薬剤師

関本　明子

【取得資格】

・日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
・日本アレルギー疾患療養指導士認定機構	アレルギー疾患療養指導

みなさんは，ご自身やご家族など大事な方が癌などの病気になったとき，どんな医療を望みますか。私はとにかくつらい思いをしてほしくありません。これが緩和ケアに興味を持ったきっかけです。

疼痛軽減のための鎮痛薬の選択は腎・肝機能だけでなく併用薬や便通状況，使用感等も考慮しています。緩和ケア＝痛みの緩和と思いがちですが，心のケアも行います。不眠やせん妄の症状は均一でないため見極めが難しく予想外の副作用が出現してしまうこともありますし，薬で解決できる症状ばかりではありません。どうすればこの患者様にとって一番良いのだろうと立ち止まることもしばしばです。しかし「おかげで楽になった」と笑ってもらえると，私も自然と笑顔になります。

小児薬物療法認定薬剤師

坂田　和佳子

【取得資格】

・日本薬剤師研修センター	小児薬物療法認定薬剤師
・日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師

調剤された薬剤はきちんと服用されていると思いますか？乳児から学童期になるまでお薬の服用が難しい患者さんはたくさんいます。小児の薬物療法はエビデンスも少なく適応外使用が多くあります。味覚や飲み込みも人により異なるので，好みや発達に応じて工夫することが必要になります。また成長に伴いたった１年でも薬物動態は大きく変化します。予防接種の説明から小児がん，心疾患まで疾患も幅広いですが，かかわった患者さんの成長を近くで見守れることは大きな喜びです。入院している子どもも，病気を持たない子と同じように“子ども”として生活できるように，薬物療法の負担を少しでも減らせるよう取り組んでいます。

外来がん治療専門薬剤師

長木　弓子

【取得資格】
・日本臨床腫瘍薬学会　外来がん治療専門薬剤師

皆さんは癌患者さんの悩みにどのように寄り添いますか?
私は学生時代に膵癌の患者さんから治療や将来に対する不安の相談を受けたことがありましたが、医療系学生でありながらも“ただ話を聞き共感する”ことしかできず解決策を提供できない悔しさを感じていました。しかし、資格取得を通して学んだ今は、共感とともに薬剤師として一人一人に合わせた支持療法の介入を行うことができます。実際の臨床現場では教科書通りにはいかず悩むことも多くありますが、時には経験豊富な先輩方に相談に乗って頂いたり、医師や看護師、栄養士、ソーシャルワーカーの方々と連携して患者さんを支え、最後には「ありがとう」と言っていただけた時の嬉しさが大きな遣り甲斐です。みなさんも是非ケモチームに入ってみませんか?

周術期管理チーム

湯本　一成

【取得資格】
・日本麻酔科学会　　周術期管理チーム
・日本化学療法学会　抗菌化学療法認定薬剤師

周術期管理において薬剤師は、術前外来にて患者さんの服用薬やアレルギー歴などを確認し、手術に影響を与える可能性のある薬の調整や休薬を提案します。また、術中では手術で使用する薬剤の準備や管理、医師への情報提供などを行い、安全な手術をサポートします。しかし、近年では術前、術中だけでなく術後、特に疼痛についての支援が求められています。周術期管理チームでは医師、看護師と共に個々の患者さんの状態に応じた鎮痛薬の選択や投与計画の調整を行い、副作用のリスクを極力抑えながら効果的な疼痛管理をサポートしています。このように術後の疼痛を適切に管理することで、患者さんの精神的ストレスや合併症の発生などを軽減させることで早期回復と早期退院につながります。薬剤師は、チームの中で薬の専門家としての知識と経験を活かし、多職種と連携しながら、患者さんに安全で質の高い周術期医療に貢献しています。

抗菌化学療法認定薬剤師

松本　千明

【取得資格】
・日本化学療法学会　　抗菌化学療法認定薬剤師

近年、薬剤耐性菌に対する取り組みは世界的な課題となっており、その一つとして抗菌薬の適正使用が求められています。「効果が期待できる薬剤」を「適切な用量・用法で」投与されることが薬物療法全体で必要なことで、使用している抗菌薬が原因となる細菌に効果があるか、用量は適切か、血中濃度は適正に保たれているかを確認することも重要です。しかし感染症治療においては、新たな耐性菌を生み出さないために「必要最低限の範囲（スペクトラム）の薬剤にとどめる」ことも必要となります。目の前の患者さんが良くなれば他はどうでもいい？それができないのが感染症治療です。微生物の知識も必要となるので苦手意識を持つ薬学生や薬剤師も多い分野ですが、一人ひとりの患者さんの治療に携わりながら未来の医療の一助となることもできる稀有な分野で、足を踏み入れたらとても面白い分野であると私は思っています。興味がある方もない方も感染症の世界を一度覗いてみてください。

小児アレルギーエデュケーター

伴野　智子

【取得資格】
・日本薬剤師研修センター　　小児薬物療法認定薬剤師
・日本アレルギー疾患療養指導士認定機構　　アレルギー疾患療養指導
・日本小児臨床アレルギー学会　　小児アレルギーエデュケーター

小児・新生児において、アレルギー疾患が他の疾患の治療にも影響があることを知り、小児アレルギーエデュケーターを目指しました。アトピー性皮膚炎をはじめとしたアレルギー疾患を持つ患者は多く、小児期のケアはとても大切です。アレルギー疾患が重症感染を引き起こすこともあるため、自身で適切なケアができない患者に対し自己効力感を高める指導をしています。また、退院後の通院時にも自己管理を継続できていることや、新たな改善点を家族と共有し成長を喜び合うことが私のやりがいとなっています。成長・発達段階に応じて薬剤選択や指導方法を変え、適切な治療と自己管理を実行することで、症状のコントロールは順調に進みます。私はこの資格を通して、継続的なケアが出来ない原因を考え、応用行動分析を利用してアドヒアランス向上に向けた主体的な習慣を促す方法を学びました。この資格が広く認知され、一人でも多くの子どもたちの笑顔が増えていくことを願っています。

若手薬剤師の声

【入職４年目】

森野　裕子

私は現在、新生児・小児科の病棟を担当しています。
主に内服薬や注射薬の用法用量が適切か、体重に基づいて換算を行っています。また、子どもたちの服薬状況を確認し、医師に対して剤形変更や服薬補助薬の追加を提案しています。これにより、一人ひとりに寄り添った医療の提供を心がけています。さらに、医師と積極的にディスカッションを行い、適切な薬物治療が行われるよう連携を深めています。
1 年目から現在の病棟に配属され、初めは右も左もわからず、服薬指導の方法や先生からの問い合わせにうまく対応できずに悩んでいました。そのような中で、同じ病棟の先輩やプリセプターからアドバイスをいただき、毎日少しずつ成長していると実感しています。
当院薬剤部では定期的に勉強会が開催されており、これらに参加することで知識を深めています。また、感染症、化学療法、救命救急など、各分野のエキスパートが揃っており、気軽に相談できる環境が整っています。ぜひ当院薬剤部で一緒に働き、薬剤師として共に成長していきましょう。

【入職４年目】

栗城　翔

私は現在、化学療法業務を担当しています。
1~2 年目から各部署への配属があり、早期から自分の興味のある分野へチャレンジする機会が得られます。化学療法業務では、主に、レジメン管理および支持療法の監査、抗がん剤の調製を行っております。患者さん毎にレジメン選択の妥当性の評価を行い、必要時、医師へ患者さんの臓器機能に合わせた抗がん剤の用量提案をすることで安全かつ効果的ながん化学療法のサポートを行っています。また、抗がん剤の使用による副作用(悪心、皮膚障害など)の発現時には面談し、適切な支持療法を主治医に提案し、処方後の効果判定も行っております。副作用マネジメントは薬剤師の真価が問われる局面です。エビデンスに基づいた支持療法の提案を行い、患者さんの治療が円滑に進むようサポートを行います。
当院の薬剤部は、新人向けのプログラムが多数充実しています。化学療法業務だけでなく、救急病棟や一般病棟など幅広く且つ深くチャレンジすることができるのが当院の魅力だと感じています。最後にご覧の皆様へ。Be the professional pharmacist with me!

交通アクセス

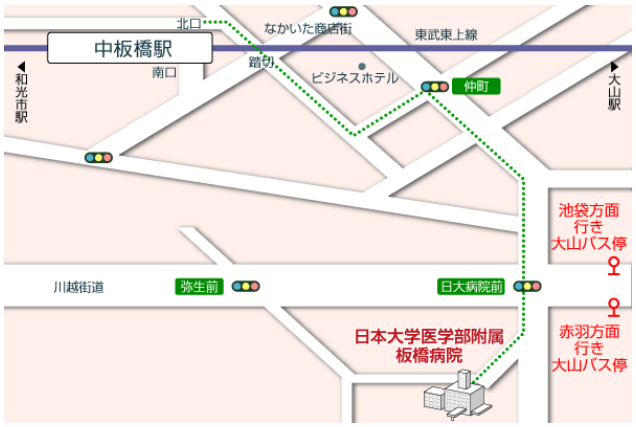
【池袋駅から】

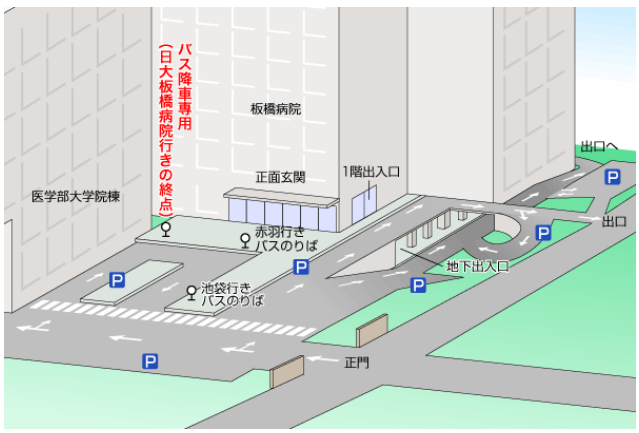


【バス】池袋駅西口④番バスのりば
▼
日大病院ゆき（直通）
千川駅経由日大病院ゆき
▼
日本大学医学部附属板橋病院

【タクシー】池袋駅西口タクシーのりば
▼
タクシー　約 20 分　1,500～2,000 円
▼
日本大学医学部附属板橋病院







病院・医学部構内に駐車場が約 173 台分あります。
（最初の 60 分まで 300 円，以後 60 分ごとに 200 円かかります）。

病院周辺にコインパーキングもあります。